

仏 教 学 部

履 修 要 項

昭 和 57 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(木) 秋尊降誕会
 10日(土) 入学式(学部・短大・大学院)
 12日(月) } 新入生オリエンテーション
 14日(水) }
 13日(火) } 在校生成績発表
 (学部・短大・大学院)
 14日(水) }
 15日(木) } 授業開始
 17日(土) } 在校生成績質疑応答
 21日(水) }
 22日(木) } 1年次生単位履修届受付
 23日(金) }
 29日(木) } 天皇誕生日 } 2・3・4年次生
 30日(金) } 単位履修届受付 } (学部により受
 付日が異なる)
 5月1日(土) 祝禱日
 3日(月) 憲法記念日
 4日(火) 研修日(全学休業)
 5日(水) こどもの日
 19日(水) } 2・3・4年次生健康診断
 28日(金) }
 6月1日(火) 祝禱日
 10日(木) 卒業論文問題提出〆切
 7月1日(木) 祝禱日
 12日(月) } 中間試験
 15日(木) } 盂蘭盆会 } (授業平常通り)
 17日(土) }
 19日(月) } 前期定期試験(前期終了科目)
 (授業休講)
 20日(火) }
 21日(水) } 夏期休暇第1日

後 期

- 9月13日(月) 授業再開
 14日(火) 前期定期試験欠試届(追試申込)
 提出〆切
 15日(水) 敬老の日
 16日(木) 外国語指定届受付(22日まで)
 (仏教・文(除英米文)・法学部
 及び短大国文の1年次生, 経
 済学部の2年次生)
 16日(木) } 前期定期試験成績発表および
 } 再試験申込受付
 17日(金) }
 23日(木) } 秋分の日
 27日(月) } 前期追・再試験(授業平常通
 } り)
 28日(火) }

- 29日(水) 両祖忌
 10月1日(金) } 祝禱日 } 社会学科(1年次生)・
 } 歴史学科(2年次生)・
 } 専攻コース指定届受付
 2日(土) }
 4日(月) } 達磨忌 } 1年次生健康診断
 5日(火) }
 7日(木) } 体育の日
 10日(日) } 第100回開校記念日
 15日(金) } (全学休業)
 16日(土) }
 19日(火) } 前期追・再試験成績発表
 20日(水) }
 11月1日(月) 祝禱日
 3日(水) 文化の日
 21日(日) 登山禅師降誕会
 23日(火) 勤労感謝の日
 12月1日(水) 祝禱日 } 転部科試験願書受付
 3日(金) }
 6日(月) 編入学願書受付(14日まで)
 8日(水) 成道会
 10日(金) 卒業論文提出〆切(正午)
 10日(金) 転部科試験
 20日(月) 冬期休暇第1日
 21日(火) 編入学試験

昭和58年

- 1月10日(月) 授業再開
 15日(土) 成人の日
 17日(月) } 定期試験(専門・基礎・教職
 } 科目)
 27日(木) }
 26日(水) } 道元禅師降誕会
 28日(金) }
 2月1日(火) 祝禱日 } 定期試験(一般・外
 } 国語・体育科目)
 5日(土) }
 7日(月) 定期試験欠試届提出〆切
 8日(火) 卒業論文口頭試問(後日掲
 示発表)
 11日(金) 建国記念の日
 15日(火) 涅槃会
 21日(月) 学部4年次生・短大生成績発
 22日(火) 表および追・再試験申込受付
 28日(月) } 学部4年次生・短大
 } 生追・再試験, 学部
 3月1日(火) 祝禱日 } 1・2・3年次生追
 } 試
 } 験
 5日(土) }
 19日(土) } 卒業生名簿発表
 21日(月) } 春分の日
 25日(金) } 卒業式・大学院修了式

目 次

I	単位制と学年制	(2)
	1. 単位と学年	(2)
	2. 授業科目の単位計算	(2)
	3. 授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
	1. 卒業に必要な単位数	(3)
	2. 卒業論文	(3)
	3. 学 士 号	(4)
III	授業科目の履修方法	(5)
	1. 一般教育科目の履修方法	(5)
	2. 外国語科目の履修方法	(6)
	3. 保健体育科目の履修方法	(7)
	4. 基礎教育科目の履修方法	(9)
	5. 専門教育科目の履修方法	(9)
	6. 随意科目の履修方法	(14)
	7. 再履修科目の履修方法	(14)
	※コード番号について	(15)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(18)
	1. 履修科目の登録	(18)
	2. 履修届記入上の注意	(19)
	3. 履修届の作成順序	(20)
V	試験および成績評価	(21)
	1. 定期試験	(21)
	2. 中間試験	(21)
	3. 追・再試験	(21)
	4. 成績評価・単位認定	(22)
	5. 進級基準	(22)
	6. 受験者心得	(22)
VI	クラス制およびクラス主任	(24)
VII	教職課程・資格講座	(24)
VIII	事務取り扱いについて	(25)
IX	届書・願書について	(27)
X	各種証明書取扱い窓口	(28)
	講 義 内 容	(33)

I 単位制と学年制

1. 単位と学年

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、授業科目を履修することにより、各授業科目に一定の基準によって与えられている単位を修得することである。従って、各入学年度の履修要項に定められている卒業に必要な単位を4年以上（7年をこえてはならない）の在学期間中に修得すれば卒業の資格が得られる。

しかしながら、本学では単位修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されているから、単位制と学年制の総合された学修制度といえる。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なる。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）
 - (a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目
 - (b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
 - (c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	24	132以上 (128)
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		4(3)	16(12)	16(12)	
専門教育科目	必修	14	38	76	
	選択		30		
	卒論(必修)		8		

※()内の数字は昭和49年度以前の入学生に適用

2. 卒業論文

イ. 4年次で卒業論文(1部)を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。審査に合格した者には8単位を与える。

ロ. 論題提出

あらかじめ自己の研究目標をたて、適当な選択科目を履修し、4年次において学部所属の教員に自己の研究概要を述べ、指導教授を決定し、その承認を得て指定の期日6月10日(木)までに卒業論文の論題を届け出なければならない。

ハ. 論文作成について

(a) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。

(b) 用紙は大学所定の論文用紙を使用すること。

(c) 論文の枚数は序文より数えて50枚(100ページ)以上、100枚(200ページ)以内とし、それぞれページを記入すること。

(d) 表紙は指定のものを使用し、論文を二つ折りにして右とじとする。

(e) 上記の規定以外のものは受付けない。

ニ. 論文の提出期限は、12月10日（金）正午まで。

論文は、誤字、脱字、内容について点検してから期日までに教務部に提出すること。

なお、期日後に提出した場合は翌年度審査し、9月に卒業するよう処理する。

ホ. 論文の審査について

論文は指導教授によって2月中旬までに審査され、論文の内容について口頭試問を行ったのち合否を判定する。

3. 学 士 号

大学に4年以上（7年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

仏教学部	禅学科	}	文学士
	仏教学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない)
- ハ. 各学年に配分された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

人文分野	4単位ずつ3科目	計 12単位	合計6科目 24単位
社会分野	4単位ずつ2科目	計 8単位	
自然分野	4単位 1科目	4単位	

※2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ(1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ」を含めて3科目選択必修	
	哲 学	4		
	論 理 学	4		
	文 学	4		
社会分野	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2科目選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする
	経 済 学	4		
	社 会 学	4		
自然分野	自然科学概論	4	1科目選択必修	
	心 理 学	4		
	人 類 学	4		

※「宗教学Ⅰ」の授業は月曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の学生手帳を参照)で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・独語・仏語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目で4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数	備考
英語 1G	2	文法	1G・1R 2科目を必修とする。但し英会話もしくは英語LLで2科目中の1科目を代替できる。	LL(ランゲージ・ラボラトリー)
英語 1R	2	講読		
英会話	2			
英語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
独語 1G	2	文法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること。	
独語 1R	2	講読		
仏語 1G	2	文法		
仏語 1R	3	講読		
中国語 1G	2	文法		
中国語 1R	2	講読		
スペイン語 1G	2	文法		
スペイン語 1R	2	講読		
ロシア語 1G	2	文法		
ロシア語 1R	2	講読		

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語として2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2 A I	2	講 読	中 国 語 2 A I	2	講 読
” 2 A II	2	”	” 2 A II	2	”
独 語 2 A I	2	”	ス ペ イ ン 語 2 A I	2	”
” 2 A II	2	”	” 2 A II	2	”
仏 語 2 A I	2	”	ロ シ ア 語 2 A I	2	”
” 2 A II	2	”	” 2 A II	2	”

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分は、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月下旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で充分考慮の上登録すること。
- ハ. 1年次生で英語2科目のうち、1科目を英語LLで代替しようとする者は、受講人員に制限があるため、単位履修届提出前にLL事務室まで申し出ること。（7号館4階）
- ニ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ホ. 不合格科目の再履修については別に定める。
- ヘ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義、実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

- ハ. 講義、実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
 ニ. 講義、実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期ともつぎの履修時間に含まれている数種目の中から決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。選択した種目名また種目の担任名ではない。

月・1(禅・仏・国)				月・2 (英・地)				月・3 (歴・社)			
ソ	フ	ト	太田	ソ	フ	ト	太田	ソ	フ	ト	太田
ハ	ン	ド	村松	ハ	ン	ド	村松	ハ	ン	ド	浅野
卓		球	長浜	卓		球	◎牧野	卓		球	長浜
庭		球	浅野	庭		球	浅野	庭		球	◎牧野
陸		上	館岡	ウ	エ	イ	ト	ウ	エ	イ	ト
ウ		ト	秋田	レ		ニ	ン	レ		ニ	ン
空		手	高橋	空		手	高橋	空		手	高橋
柔		道	◎光永	柔		道	光永	柔		道	光永

再履修クラス（2年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で行う）

火・3			水・1			水・2		
球	技	◎宮 沢	球	技	◎原 山	球	技	◎原 山
剣	道	上 山	剣	道	上 山	剣	道	上 山

※◎印は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位を認定する。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが、実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い、毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれ担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替ええないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

(a) 盗難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には、担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。

(b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示することで、平常よく見ておくこと。

4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で1年次・2年次において4科目16単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	基礎仏教学	4	昭和50年度以降入学生のみ
	仏書解説Ⅰ	4	
2年次	仏教語解説	4	
	仏書解説Ⅱ	4	

※昭和49年度以前の入学生は3科目12単位必修

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分れ、それぞれ定められた単位を修得すること

になっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって充分検討して履修すること。

なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

禅 学 科

必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	禅学概論	4		
	禅宗史 I	2	中国禅宗史	
	宗典講読 I	2	修証義・用心集・随聞記	
	禅学実習 I	2	坐禅（坐禅儀・用心記）	
三 年 次	宗典講義 I	4	正法眼蔵	
	禅宗史 II	2	日本禅宗史	
	宗典講読 II	2	大清規・信心銘拈提	
	禅学講義	2	参同契・宝鏡三昧・証道歌	旧 禅学講義 I
	禅学演習 I	2	碧巖録・従容録・無門関	
	禅学実習 II	2	坐禅・法式・参禅指導	
四 年 次	演 習 I	4		
	宗典講義 II	4	伝光録	
	禅学演習 II	2	洞山録・永平広録・臨濟録	
	演 習 II	4		
	卒業論文	8		

禅 学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
禅 学 研 究	4		哲 学 概 説	4	
禅 籍 講 義	4		現 代 哲 学 概 説	4	
禅 学 特 講	4	I・II・III・IV	哲 学 史	4	
禅 特 講	4		哲 学 演 習	4	
禅 学 思 想 史	4		東 洋 思 想 研 究	4	
詩 偈	4		宗 教 学 概 論	4	
日 用 経 典	4		宗 教 哲 学 新 宗 教 概 説 神 道 概 説	4	57年度は宗教 哲学(輪番開 講)
禅 美 術	4		宗 教 史	4	
仏 教 概 論	4		キ リ ス ト 教 史	4	
仏 教 研 究	4		パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 教 理 史 I	2	印 度	パ ー リ 語 上 級	4	
仏 教 教 理 史 II	2	中 国	パ ー リ 語 演 習	4	
印 度 仏 教 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
中 国 仏 教 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
日 本 仏 教 史	4		チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・ V(Iは休講)	チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
仏 典 研 究	4		中 国 文 学 概 論	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		中 国 文 学 演 習	4	
パ ー リ 仏 教 特 講	4	旧 パ ー リ 仏 典 特 講	ラ テ ン 語 特 講	4	
原 始 仏 教	4		宗 教 教 育	4	
各 宗 教 概 要 (日 蓮 教 学 真 言 学 浄 土 学)	4	57年度は日蓮 教 学 (輪 番 開 講)	宗 教 行 政	4	隔 年 開 講 (休 講)
仏 教 民 俗 学	4		教 化 法	4	
仏 教 美 術	4		青 少 年 教 化 法	4	旧 青 年 教 化
青 少 年 問 題 研 究	4		心 理 学 概 論	4	
青 少 年 指 導 演 習	4				

仏教学科

必修科目 (46単位)

	授業科目	単位	科目内容	備考
二年次	仏教概論	4		
	仏教教理史 I	2	印度仏教教理史	
	仏典演習 I	2	原人論・覚夢抄・七十五法	
	禅学実習 I	2	坐禅(坐禅儀・用心記)	
三年次	仏教教理史 II	2	中国仏教教理史	
	印度哲学史	2		
	経典講読 I	2	法句経・四十二章経・遺教経・心経等・金剛般若経	
	仏典演習 II	2	起信論・三論玄義・四教儀・五教章	
	宗典講義 I	4	正法眼蔵	
	禅学実習 II	2	坐禅・法式・参禅指導	
四年次	演習 I	4		
	経典講読 II	2	法華寿量品・維摩経 法華普門品・般若経	
	宗典講義 II	4	伝光録	
	演習 II	4		
	卒業論文	8		

仏 教 学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
仏 教 研 究	4		哲 学 概 説	4	
印 度 仏 教 史	4		現 代 哲 学 概 説	4	
中 国 仏 教 史	4		哲 学 史	4	
日 本 仏 教 史	4		哲 学 演 習	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・ V(Iは休講)	東 洋 思 想 研 究	4	
仏 典 研 究	4		宗 教 学 概 論	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		宗 教 哲 学 新 宗 教 概 説 神 道 概 説	4	57年度は宗教 哲学(輪番開 講)
パ ー リ 仏 教 特 講	4	旧 パ ー リ 仏 典 特 講	宗 教 史	4	
原 始 仏 教	4		キ リ ス ト 教 史	4	
各 宗 要 (真 言 学) (日 蓮 教 学) (浄 土 学)	4	57年度は日蓮 教 学 (輪 番 開 講)	パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 民 俗 学	4		パ ー リ 語 上 級	4	
仏 教 美 術	4		パ ー リ 語 演 習	4	
禪 学 概 論	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
禪 学 研 究	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
禪 宗 史 I	2	中 国	チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
禪 学 史 II	2	日 本	チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
禪 学 特 講	4	I・II・III・IV	中 国 文 学 概 論	4	
禪 特 講	4		中 国 文 学 演 習	4	
禪 籍 講 義	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
禪 学 思 想 史	4		宗 教 教 育	4	
詩 偈	4		宗 教 行 政	4	休 講 (隔 年 開 講)
日 用 経 典	4		教 化 法	4	
禪 美 術	4		青 少 年 教 化 法	4	旧 青 年 教 化
青 少 年 問 題 研 究	4		心 理 学 概 論	4	
青 少 年 指 導 演 習	4				

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日本宗教文化史	4		日 本 語 F	2	
独 語 F	2		独 語 FLL	2	
仏 語 F	2		仏 語 FLL	2	
中 国 語 F	2		中 国 語 FLL	2	
スペイン語 F	2		スペイン語 FLL	2	
ロシア語 F	2		ロシア語 FLL	2	

※ 日本語Fは留学生対象の科目で1年次生より履修できる。

7. 再履修科目の履修方法

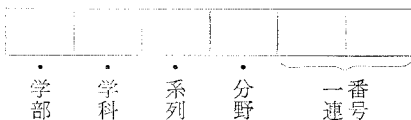
- イ. 再履修とは、前年度、履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。
- ニ. 外国語・体育実技・保健体育理論および宗教学Iを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、留年者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分



(a) 学部, 学科番号は学生番号欄での説明のとおり

(b) 系列, 分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1(必修). 2(選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	1
外国語科目	2	
第1外国語		
第2外国語		
保健体育科目	4	
体育実技		1
保健体育理論		2
専門教育科目	5	
必修科目		1. 2. 3
選択科目		5. 6. 7. 8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3. 4. 5. 6. 7. 8

2 学生番号について

学生番号は8桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 学生番号区分

・ 入学 年度 (西暦)	・ 学籍 異動	・ 学 部	・ 学 科	一連番号			

(例) 正規学生番号

2	0	1	1	0	0	0	1
・ 82 年 入 学	・ 事 故 な し	・ 仏 教 学 部	・ 禪 学 科	一連番号(1番)			

ロ. 学籍異動の番号について

0—正規の学生

1—留年

2—転部科

3—編入

4—留年をして転部科

転部科・編入をして留年

(例Ⅰ) 留年学生番号

1	1	1	1	0	0	1	1
・ 81 年 入 学	・ 留 年	・ 仏 教 学 部	・ 禪 学 科	一連番号(11番) (留年のつど変わる)			

(例Ⅱ) 編入学生番号 (57年度3年編入)

0	3	1	1	0	0	2	2
・ 履 修 要 項 度 (80)	・ 適 用 年 入 入	・ 編 入	・ 仏 教 学 部	・ 禪 学 科	一連番号(22番)		

3 学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号	学部・学科名	学部番号	学科番号
仏教学部	1		法学部	4	
禅学科		1	法律学科		1
仏教学科		2	政治学科		2
文学部	2		経営学部	5	
国文学科		1	経営学科		1
英米文学科		2	短期大学	8	
地理学科		3	国文科		1
歴史学科		4	英文科		2
社会学科		5	放射線科		3
経済学部	3				
経済学科		1			
商学科		2			

Ⅳ 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数は次表のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	14科目	—
2 年 次	14科目以内	17科目以内
3 年 次	14科目以内	17科目以内
4 年 次	1 科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および随意科目は、上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に充分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。
(提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口に相談すること)

ロ. 履修届の日時・場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は、教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2

・ 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

	月 曜 日			
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時限	独 語 1 G	312201	百 済	879
	~~~~~			
二時限	保健体育理論(前)	314201	長 浜	993
	保健体育理論(後)	314201		622
三時限	宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
	~~~~~			
四時限	論 理 学	310203	岩 野	093
	自然科学概論	310401	大 森	156
五時限	体 育 実 技	314101	大石(武)	141
	~~~~~			

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
(1)	1		独 語 1 G	3:1:2:2:0:1	百 済	8:7:9
	2		保健体育理論(前)	3:1:4:2:0:1	長 浜	9:9:3
	3		宗 教 学 I	3:1:0:1:0:1	平井(俊)	7:3:5
	4	○	論 理 学	3:1:0:2:0:3	岩 野	0:9:3
	5		体 育 実 技	3:1:4:1:0:1	大石(武)	1:4:1

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
  - イ. 科目名・科目コード・担任名・担任コードが一致しない場合
  - ロ. 時限を誤って記入した場合
  - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例、0と6・1と7)
  - ニ. その他、不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は、時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失ないように保管すること。

### 3. 履修届(時間割)の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順序	授 業 区 分	授 業 科 目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎仏教学, 仏書解説Ⅰ (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野, 開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野, 開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野, 開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			14

## V 試験および成績評価

### 1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月ないし2月に実施される。
- ロ. 受験にあたっては、正規の手続きを経て登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の时限とし、時間および教場等については掲示で発表する。  
(注) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は曜日、时限とも変わるので試験時間および教場割等掲示に充分注意すること。

### 2. 中間試験

授業科目によって担任者が独自に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

### 3. 追・再試験

#### I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

#### II 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。  
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

#### III 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技・禅学実習・その他実験実習を伴う科目は、追・再試験ともこれを行

わない。

- ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

#### 4. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、可以上を合格、不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については規定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は70点以下とする。

#### 5. 進級基準

##### ◎正規進級

上級学年に進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち30単位以上。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、卒業所要単位のうち60単位以上。
- ハ. 3年次から4年次に進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

##### ◎注意進級

正規の進級基準には達しないが、教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が、再度つづく場合には、取得単位の不足から、4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

- イ. 1年次から2年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、29～20単位までとする。
- ロ. 2年次から3年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、59～50単位までとする。
- ハ. 3年次から4年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上を取得するも、その内一般教育科目、保健体育科目、外国語科目の不合格単位数の合計が16単位までとする。ただし17単位以上は留年とする。

#### 6. 受験者心得

- イ. 指定された試験場（教場）で受験すること。
- ロ. 学生証を所持しない学生は、いかなる理由があっても受験できない。また、学生証は

監督者が見やすいように通路側に提示しておくこと。

ハ. 試験開始より30分以上遅刻した者は受験できない。また開始後30分を経過するまで退場できない。

ニ. 答案の作成はペン書き（ボールペン可）を原則とする。とくに、学部・学科・学年・番号・氏名は必ずペン書きにし、解答にかかる前に記入すること。

ホ. 次の場合は退場を命じ、その答案を無効とする。

- (1) 私語や態度の不正なもので注意しても改めないとき
- (2) 許可なく物品・教科書・ノート類を貸借したとき
- (3) 監督者の指示に従わないとき

ヘ. 次の場合には、その答案を無効とする。

- (1) 無記名のもの
- (2) 配布された答案用紙以外のものを用いたとき
- (3) 指定された場所に提出しないとき

ト. 答案用紙は指定の枚数だけ配布し、原則として書き損じても再交付しない。

チ. 受験中に不正行為があつて、当該教授会が不正行為と認定したときは、学則第57条により懲戒する。なお、懲戒は全学に公示する。

リ. 以上のほか、試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示による。

## VI クラス制およびクラス主任

- イ. 1・2年次は学科毎にクラス制をとっている。
- ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

## VII 教職課程・資格講座

仏教学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程・学校図書館司書教諭・博物館学(学芸員)・社会福祉主事の1課程3講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したのものには、中学校・高等学校の各免許状が与えられる。

学校図書館司書教諭、学芸員、社会福祉主事の各講座は、学校教育とならんで重要な社会教育の代表的な施設である博物館、図書館、青少年教育施設などの専門職員となる有資格者を養成するために設けられているものである。

課程・講座の履修希望者は、第1年次の秋（11月中旬）にガイダンスを開催するので、第2学年次から資格取得のため、科目履修を予定している者はこのガイダンスに出席し「教職課程・資格講座受講の手びき」をもらうこと。（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること）

詳細については掲示板で発表する。

### 開講されている課程・講座

課程・講座名	
教 職 課 程	2年次より
学校図書館司書教諭講座	”
博 物 館 学 講 座	”
社 会 福 祉 主 事 講 座	”

○課程・講座の履修は実習の関係上、3・4年次からの登録による履修は認めない。

## VIII 事務取り扱いについて

### 1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績発表後5日以内に教務部③番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

### 2. 授業時間について

授業時間は次のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

### 3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時～13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

### 4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、第3掲示板（6号館横）に掲示するか、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部①番窓口に申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については、午前7時現在国電（山手，中央，京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

### 5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲

示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

#### 掲示板の使用区分

- イ. 第1 掲示板 (7号館前)  
    公示・告示・その他連絡事項
- ロ. 第2 掲示板 (6号館横)  
    学部別連絡事項・その他
- ハ. 第3 掲示板 (6号館横)  
    休講・教職・その他
- ニ. 第4 掲示板 (6号館横)  
    研究室専用

## 6. 問い合わせ

事務室への電話による質問(行事予定, 休講, 授業, 学籍, 試験, 成績, その他)は, 間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは, 必ず登校のうえ, 掲示板を見るか, 関係事務室窓口で問い合わせること。

## Ⅸ 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口	
届	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(×切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	③
	卒業論文論題届 (仏教・文学部のみ)	各学部掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑥
	本 籍 地 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑥
	保 証 人 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑥
	保 証 人 住 所 変 更 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑥
願	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができないときは、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑥
	復 学 願	願い出により休学した者が復学する場合は、毎学年の始めとし、保証人連署の上願い出て復学の許可を得なければならない。 「復学願」の提出は4月初旬までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による休学をした場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑥
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑥
	転部(科)・転学願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり (転学はなし)	要	要	①

## X 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	一通 100円 (英文証明書) 一通 300円
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職、司書教諭、学芸員、社会教育、社会福祉)		
一般教養科目修了(見込)証明書		
満期退学(見込)証明書 (博士後期)	教務部⑤番	
修了(見込)証明書(修士)		
修 士 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑥番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	医 務 室	
在 学 証 明 書	学 生 部	無 料
学 割		
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付(郵送料は現金で経理部窓口へ納入)の上、取扱い窓口へ申し込むこと。  
 発行は原則として3日後。ただし教務部取扱い証明書は、6月下旬より10月中旬と3月は大変混雑が予想されるので、掲示に注意し、充分余裕をもって申し込むこと。

# 講 義 内 容



# 講義内容目次

## 一般教育科目

### 人文分野

宗 教 学 I (櫻井 秀雄).....	33
宗 教 学 I (松本 皓一).....	33
宗 教 学 I (岡部 和雄).....	33
宗 教 学 I (再クラス)(松本 皓一).....	33
宗 教 学 I (再クラス)(吉津 宜英).....	34
哲 学(中村友太郎).....	34
論 理 学(岩野 秀明).....	34
文 学(篠原 壽雄).....	34

### 社会分野

法学憲法(大久保治男).....	35
経 済 学(谷敷 正光).....	35
社 会 学(角家 文雄).....	35

### 自然分野

自然科学概論(三野 英彦).....	36
人 類 学(中島 寿雄).....	36
心 理 学(谷口 泰富).....	36

## 外国語科目

英 会 話(Pratt T. C. Dean).....	37
------------------------------	----

## 保健体育科目

体育実技.....	38
-----------	----

## 随意科目

日本宗教文化史(脇本 平也).....	41
独 語 F (吾妻雄次郎).....	41
独 語 F L L (小林佳世子).....	41
仏 語 F (加藤 節子).....	41
仏 語 F L L (マドレーヌ・マルタン).....	42
仏 語 F L L (松岡宏一).....	42
中 国 語 F (堀田 洋子).....	42

中 国 語 F L L (果 莖 英).....	42
ス ペ イ ン 語 F (佐藤玖美子).....	42
ス ペ イ ン 語 F L L (フワン・ナバロ).....	43
ロ シ ア 語 F (タチャーナ・バリーソヴナ ・野村).....	43
ロ シ ア 語 F L L (タチャーナ・バリーソ ヴナ・野村).....	43
日 本 語 F (留学生対象)(杉山 秀子).....	43

## 基礎教育科目

基礎仏教学(石川 力山).....	44
基礎仏教学(岡部 和雄).....	44
基礎仏教学(池田 魯参).....	44
仏書解説 I (青龍 宗二).....	44
仏書解説 I (伊藤 俊彦).....	45
仏書解説 I (新井 勝龍).....	45
仏書解説 II (片山 一良).....	45
仏書解説 II (田上 太秀).....	45
仏書解説 II (伊藤 隆寿).....	45
仏教語解説(原田 弘道).....	45
仏教語解説(吉津 宜英).....	46
仏教語解説(峯岸 孝哉).....	46

## 専門教育科目

禅学概論(鏡島 元隆).....	47
禅学思想史(鏡島 元隆).....	47
禅 宗 史 I (田中 良昭).....	47
禅 宗 史 II (伊藤 俊彦).....	47
禅学実習 I (酒井 得元).....	48
(小坂 機融).....	48
(河村 孝道).....	48
禅学実習 II (鈴木 格禅).....	48
禅学講義(小坂 機融).....	48
禅学演習 I (黒丸 寛之).....	48

禅学演習Ⅱ(河村 孝道)……………49	外国語仏書演習(平井 俊栄)……………56
宗典講読Ⅰ(新井 勝龍)……………49	ペーリ語初級(東元 慶喜)……………56
宗典講読Ⅱ(若月 正吾)……………49	ペーリ語上級(東元 慶喜)……………56
宗典講義Ⅰ(酒井 得元)……………49	ペーリ語演習(東元 慶喜)……………56
宗典講義Ⅱ(光地 英学)……………50	ペーリ仏教特講(片山 一良)……………56
日用經典(櫻井 秀雄)……………50	サンスクリット語初級(中田 直道)……………57
禅学特講Ⅰ(原田 弘道)……………50	サンスクリット語上級(奈良 康明)……………57
禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之)……………50	チベット語(文法)(中田 直道)……………57
禅学特講Ⅲ(伊藤 俊彦)……………50	チベット語(講読)(山口 瑞鳳)……………57
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅)……………50	ラテン語特講(佐藤 玖美子)……………58
禅 特 講(椎名 宏雄)……………51	宗教学概論(松本 皓一)……………58
詩 偈(山口 晴通)……………51	宗 教 史(松本 皓一)……………58
禅 美 術(竹内 尚次)……………51	キリスト教史(秀村 欣二)……………58
仏教概論(山内 舜雄)……………52	宗教哲学(脇本 平也)……………58
原始仏教(片山 一良)……………52	各宗綱要(日蓮教学)(小松 邦彰)……………59
印度仏教史(片山 一良)……………52	仏教美術(金子 良運)……………59
中国仏教史(佐藤 達玄)……………52	仏教民俗学(和田 謙寿)……………59
日本仏教史(山内 舜雄)……………52	宗教教育(櫻井 秀雄)……………59
仏教教理史Ⅰ(印度)(平井 俊栄)……………53	教 化 法(皆川 広義)……………60
仏教教理史Ⅱ(中国)(田中 良昭)……………53	青少年教化法(皆川 広義)……………60
印度哲学史(田上 太秀)……………53	青少年問題研究(和田 謙寿)……………60
經典講読Ⅰ(田上 太秀)……………53	青少年指導演習(和田 謙寿)……………60
經典講読Ⅱ(岡部 和雄)……………53	哲学概説(斎藤 知正)……………60
仏典演習Ⅰ(佐藤 達玄)……………54	現代哲学概説(久保 陽一)……………61
仏典演習Ⅰ(吉津 宜英)……………54	哲 学 史(大村 晴雄)……………61
仏典演習Ⅱ(池田 魯参)……………54	哲学演習(斎藤 知正)……………61
仏典演習Ⅱ(伊藤 隆寿)……………54	中国文学概論(飯田 和行)……………61
仏典研究(岡部 和雄)……………55	中国文学演習(飯田 利行)……………61
仏教研究(田上 太秀)……………55	東洋思想研究(船津 富彦)……………62
仏教特講Ⅱ(納富 常天)……………55	心理学概論(篠原 英寿)……………62
仏教特講Ⅲ(鎌田 茂雄)……………55	禅学研究(青龍 宗二)……………62
仏教特講Ⅳ(太田 久紀)……………55	禅籍講義(青龍 宗二)……………62
仏教特講Ⅴ(佐藤 達玄)……………55	

# 一般教育科目

## 人文分野

### 宗 教 学 I

櫻 井 秀 雄

宗教とは何であるかを究明し、人間・文化・社会とのかかわりあいを知るための方法論にもふれながら、宗教の諸形態を概観し、そこにみられる宗教現象の諸相をとらえ、仏教学や禅学参究上、不可欠の基礎研究に資することにしよう。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕 駒沢大学仏教学研究室編『宗教学 I』（更生社）

### 宗 教 学 I

松 本 皓 一

宗教全般についての理解を深めたのち、人間にとって宗教の果す意味や働きを明らかにし、併せて仏教理解への基礎を培いたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

### 宗 教 学 I

岡 部 和 雄

仏教学を専攻する学徒にとっても、宗教学の知識は不可欠である。宗教学は仏教学とは異なる独自の方法論をもっているから、対象が同じ仏教であっても、おのずから違った問題意識や関心が導き出されるはずである。本講義では、宗教学の基本的な考え方、諸概念・諸領域を概説し、併せて仏教の特質を、世界の諸宗教との比較において考察することにし

たい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕 『宗教学 I』（更生社）『世界の宗教』（大明堂）

### 宗 教 学 I（再クラス）

松 本 皓 一

人間にとって宗教とは何であるか、その意味や働きを考えながら、宗教全体を展望し、後半では仏教について述べる。

〔教科書〕 『宗教学 I』（更生社）

宗教というとは何か高い所から下に向かって示されるようなものかと考える諸君があるかもしれない。確かに教団を持っている場合には組織というものがあり、教祖と呼ばれる人から平の信者に至るまでの上下の関係があって、上意下達の形になっていることも事実である。しかし、我々ももっと自由人の発想で宗教を考えてよいのではあるまいか。私はこの人生を責任をもって生きることが宗教だと思っている。宗の所に責任という意味を読み、教とはどのように生きるかを学ぶことだと思う。この授業は教科書にそって行うが、基本的態度は以上のことを眼目とする。最後のテストだけではなく、年間何回かのレポート提出をも御願したい。

〔教科書〕 『宗教学 I』 (更生社)

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』 (世界書院)

## 哲 学

中 村 友 太 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているかの自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の習得にも努める。

## 論 理 学

岩 野 秀 明

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここという思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと、日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

## 文 学

篠 原 壽 雄

より知的生活をめざす人間は、書かれたもの(書物)を正しく読み味わうことが要求される。このために多くの作品に直接あたって、その読み方などを学びとることは何にもまして大切である。そこでこの講座では、これからの研究に欠くことのできない基礎教養を旨として、中国の古典—邦人の作品も—をえらんで文学として鑑賞すると共に、その訓詁法を学び、将来、漢訳經典・禅録を研究する一助にしたい。とくにすぐれた文学作品を通

して、唐宋の俗学をも学び、禅録研究にも資したい。

〔教科書〕 プリント、他は随時示す。

## 社 会 分 野

### 法 学 憲 法

大久保治男

法学や医学に関する常識・教養は善良な市民としての必須条件です。技術革新，大衆情報化社会，消費革命など政治・経済・文化の現代社会の特質をふまえつつ社会が繁栄し各個人と全体との利益の調和のための最大公約数としての法秩序の重要性は益々大きくなっています。憲法的大きな問題から，家族関係や財産関係の民事法制，犯罪や刑罰や刑事政策まで入れた刑事法制を鳥瞰しつつ，アップ・ツー・デイトの具体的事例をたくさん話して受講生に法に対する関心と興味を起させ将来社会人になったとき役立つ法学を講述します。「宗教と法」の問題にもふれます。仏「法」を勉強している皆さん，法律の「法」も社会正義のために楽しく勉強してみませんか。

〔教科書〕 大久保治男『法学概論』（芦書房）

### 経 済 学

谷 敷 正 光

われわれが生活している社会は資本主義社会であり，そこに起こるあらゆる社会事象や課題に対し客観的で公正な判断を下すには，資本主義社会の科学的な知識＝資本主義社会の構造や運動法則を把握している必要がある。本講は資本主義社会の基本的理解のため，まず経済社会はどのように発展してきたかといった歴史的発展法則の理解から，こうして成立した資本主義社会は一体どのような特徴をもち，どういう構造をし，どういう運動を行っているかといった原理的な把握まで体系的に展開するつもりである。

〔教科書〕 林直道『経済学入門』（青木書店）

### 社 会 学

角 家 文 雄

社会学の基礎理論と教育社会学，マス・コミ社会学を講義する。

# 自然分野

## 自然科学概論

三野英彦

資源問題，エネルギー問題，環境汚染問題，ないしは，わが国科学技術発展の展望など今日のわれわれの身近かな科学的諸問題をとりあげて，講義する。

## 人類学

中島寿雄

人類学の範囲はきわめて広く，短時間にその各項目を講ずるときは，表面をなでるだけの散漫なものになりがちなので，ここでは問題を「性」にしぼって講ずる。性は人類学上の重要な概念であるばかりでなく，人類学のほとんど全領域をおおいうものだからである。本学の人類学は一般教育のうち自然科学に属しているので，講義も自然科学的方面に主眼をおくことは勿論だが，ヒトの本質上，社会や文化にも言及せざるをえず，むしろ身体と文化との関連を考究させることこそ，一般教育人類学の目的に副うものというべきであろう。

〔教科書〕 準備中

〔参考書〕 講義中に随時指示する。

## 心理学

谷口泰富

心理学全般に亘る基本的問題を，主として次のような項目にしたがって解説する。

- 1) 心理学とは何か
- 2) 環境の認知
- 3) 人格
- 4) 学習
- 5) 記憶
- 6) 社会的行動
- 7) その他

〔教科書〕 中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）

# 外国語科目

英 会 話

Pratt, T. C. Dean

English conversation necessary for everyday life. Native speaker word-group sound. Also discussion on current life, Japan and world.

# 保健体育科目

## 各実技種目の概要及び指導教員名

球 技 (体育館) 原山良勁・宮沢栄作

基礎技術の習得とに併わせて、ゲームにより、その競技を理解する。(バレーボール、バスケットボール、その他)

服装：一般的運動服装，上履用運動靴

体 操 (玉川校舎) 三 幣 晴 三

マット・鉄棒を中心に行い、初心者を中心とした遊戯的内容から出発し、段階的に技を指導する。

服装：一般的運動服装，靴は体操シューズが望ましい。

相 撲 (玉川校舎) 館 岡 儀 秋

基本技(攻の型・守りの型)の練習を主に、併せて応用技の習得を行い、心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用し、服装は海水パンツ等の上に、相撲パンツを使用する。

ウエート・トレーニング (玉川校舎) 宮沢栄作・秋田浩一

個人の体力差に応じてトレーニングプランを作成し、主にバーベルを使用したウエートトレーニングを行なう。このトレーニングの目的は体力、体軀の増強、内臓器官の強化である。

柔 道 (玉川校舎) 光 永 吉 輝

初心者を対象として基本技能(受け身)、応用技能(投げの形)(固の形)等の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

## 剣 道 (第二体育館)

上 山 智 身

剣禅一致の精神に基き初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本動作
  2. わざ
  3. 懸り稽古, 互格稽古
  4. 試合稽古
- 服装・試験については最初の授業において説明する。

## 空 手 道 (玉川校舎)

大石武士・高橋俊介

拳禅一致の精神に基き初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技 (空気を相手に, 受, 突, 打, 蹴技の反復練習)
2. 形 (基本技の受, 突, 打, 蹴を合理的に構成したもので空気を相手に行う)
3. 護身術
4. 約束基本組手 (基本技で取得した, 受, 突, 打, 蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手)

服装は原則として空手道衣着用のこと。

## 陸 上 競 技 (玉川校舎)

森本 葵・館岡儀秋

駒大式四種競技 (100米, 長距離, 砲丸投, 走高跳) とし得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが, 普通のトレパンでも可。なお, スパイクの着用は原則として認めない。

## ソフト・ボール (玉川校舎)

太 田 誠

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ, トレパン。グラブ, ミットは貸与する。

## ハンド・ボール (玉川校舎)

村松 誠・浅野鉦世

パス, シュート等基本技術を中心にゲームを行なう。服装は, トレシャツ, トレパン, 運動靴を用意すること。

## サ ッ カ ー (玉川校舎)

秋 田 浩 一

基本技術を中心として練習し, 毎時間ゲームを行う。

服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

## 卓 球 (玉川校舎)

長浜友雄・原山良勁  
牧野 茂・嶋田美津子

ゲーム (シングル, ダブルス) 中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。体育館シューズを用意すること。(ラケットは貸与する)

## テ ニ ス (玉川校舎)

長浜友雄・牧野 茂  
浅野鉦世・嶋田美津子

ゲーム (ダブルス) 中心の授業を行う。服装は、一般運動服装 (白のトレーニングパンツまたは短パンツが望ましい) とするが、靴はテニスシューズを用意すること。

## 実 技 教 場 案 内

- (1) 体 育 館：本学内，男子更衣は三階東側スタンド。(ステージに向い左側)  
女子は三階西側の更衣室。(ステージに向い右側)  
TEL (418) 9517
- (2) 第二体育館(武道館)：本学内3号館の裏側相撲道場の隣，一階は柔道場，二階は剣道・空手道場。更衣室は各階に有る。  
TEL (418) 9201
- (3) 玉川校舎：世田谷区宇奈根1-1-1 (学生手帳を参照)  
TEL (709) 0717

# 随 意 科 目

日本宗教文化史

脇 本 平 也

——宗教思想論争——昨年度に引き続き、日本における宗教思想の対立・論争の事例をいくつか取り上げ、文化史的背景を考慮しながらながめてみる。原史料を読む場合には、演習形式を取り入れて学生諸君にも分担を課することがある。

〔参考書〕 適時指示する。

独 語 F

吾 妻 雄 次 郎

主として読解力を養うため、Seghers, Bredel, Hermlin 等の短篇小説を読み、戦前から戦後にまたがるドイツの現代作家たちの眼が現実をどのように捉えていたかの一端を識る緒にしたい。

〔教科書〕 使用テキストについては開講時に教場において指示する。

独 語 F L L

小 林 佳 世 子

音としてのドイツ語にふれ、聴きとり能力を養成することに重点をおく。聴きとることができてこそ意志の疎通も可能となるからである。テープを繰り返し聞くことにより、発音および基本的な文型や語彙を身につけ、平易な日常会話ができるようにしたい。口頭練習の他、できるだけ多様なテープを聞き、時にはスライドを見て、生きたドイツ語、ドイツの姿に接して頂きたい。受講者は一年次のドイツ語を既習していることが望ましい。

仏 語 F

加 藤 節 子

フランス19世紀の文学史のやさしいテキストを読むことによって、フランス語の読解力を修得すると共に、この時期に輩出した大作家・詩人たち、例えばユゴー、スタンダール、バルザック、フロベール、ボードレール、モーパッサン、ゾラなどの文学的位置づけをしていく。また折にふれてこれら作家の作品の抜粋を読んで作品の鑑賞をも併せてやってゆきたい。

〔教科書〕 プリント

仏 語 F L L

マドレーヌ・マルタン

テキストを使ってやさしい会話、初めの時間にテキストの説明をし、次の時間にテキストに従って会話をする。

- テキストの復習をよくすること。
  - 間違いを恐れずに活発な発言をのぞむ。
  - 松岡先生の会話のクラスを併せて履修することがのぞましい。
- 〔教科書〕 La France en Direct 1 のプリント

仏 語 F L L

松 岡 宏 一

L L部に備えてある HACHETTE 社の「LE FRANÇAIS ET LA VIE」を使用して講義をすすめます。耳の訓練に重きをおき、こちらの設問に適宜な反応を示せるよう指導いたします。この教科書にはスライドと音声がついておりますのでこれを十二分に活用し、効果をあげたいと念じております。

生徒諸士に望みたいことは、L Lだけではなく、同時に他のフランス語正課にも出席していただきたいです。

〔教科書〕「LE FRANÇAIS ET LA VIE」(HACHETTE)

中 国 語 F

堀 田 洋 子

1・2年で学習した中国語の語法や知識を、再確認しながら、現代作家（老舍、巴金、謝冰心等）の短篇を講読していきます。

〔教科書〕 開講時に指示します。

中 国 語 F L L

果 荃 英

中国語を選択した2年以上の学生を対象とし、やさしい中国語の会話の練習を目的とします。視聴覚教材（フィルムストリップ）を使用して反復練習で日常会話を習得したいと思えます。

〔教科書〕 教場にて視聴覚教材のコピーを配布する。

ス ペ イ ン 語 F

佐 藤 玖 美 子

この授業は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指しており、特に講読力と作文力の養成に力を入れたいと思う。

テキストは受講者の程度によって、適当なものを選ぶ予定。

## スペイン語FLL

フワン・ナバロ

スペイン語初級を終えたものを対象に、スペイン国営放送より送られた教材用ビデオを使用し、画面のドラマを見ながら楽しく授業を進めたいと思っている。

## ロシア語F

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標としたい。

〔教科書〕 教室にてコピーを配布する。(無料)

## ロシア語FLL

タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し、簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔テキスト〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

## 日本語F (留学生対象)

杉山 秀子

本講座は昭和57年度に初めて設置された日本語の随意科目である。対象者は駒沢大学に在籍している1年から4年までの留学生とする。とりわけ日常生活の意志伝達にはさほど苦労しないが、若干こみいった内容の説明や、正しい表記、用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後に細目について詳しく説明する。授業では、最新のビデオやスライド等を駆使しつつ現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

# 基礎教育科目

## 基礎仏教学

石川力山

曹洞宗の教義で本尊と仰がれる「一仏両祖」、すなわち釈尊・道元禪師・瑩山禪師の伝記と思想について概説する。まず釈尊の生涯と基本的な教説について説明する。次いで、『三祖行業記』の道元禪師伝、『諸嶽開山二祖禪師行録』の瑩山禪師伝を読みながら高祖と太祖の生涯と思想について考える。仏教学の学習には漢文の読解力が不可欠の要素であり、両祖の伝記を読むことによってあわせてその力を養い、さらに仏教学や禅学研究の方法や研究態度についても言及したい。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 水野弘元『釈尊の生涯』（春秋社）

## 基礎仏教学

岡部和雄

仏教学への「入門」、あるいは「道しるべ」として、必要な基礎知識の習得に主眼をおく。釈尊および高祖・太祖の伝記を中心に講義を進めるが、仏教学（禅学をふくむ）の諸領域、研究方法、立場などについても折を見て解説するつもりである。

## 基礎仏教学

池田魯参

釈尊と高祖道元禪師と太祖瑩山禪師とのお三方を、曹洞宗義では、「一仏両祖」と称しているが、このお三方の生涯と思想について考えてみたい。従来の研究成果をふまえながら、共通する理論と実践の基本型をさぐり、仏教学としての問題の設定の仕方や、研究方法などについて考察したい。

〔教科書〕 『釈尊の生涯』（春秋社）¥ 1,500 『道元』（評論社）¥ 1,300 『瑩山禪師の研究』（春秋社）¥ 3,000

## 仏書解説 I

青龍宗二

この講座は宗典解説が課せられている。宗典とは曹洞宗宗典を指すが、それは両祖撰述の典籍やその門流によって書かれたもの、更には宗門依用の禅籍や経典などである。特にこの講義では両祖撰述の正法眼蔵や伝光録を中心として、書誌的教理的の両面から解説し、更に道元・瑩山両祖の門流による宗典参究の歩みにも触れてゆきたいと思う。

〔参考書〕 岡田宜法『禅籍史論』

## 仏書解説Ⅰ

伊藤俊彦

本講義の内容は禅籍の解説である。広く中国・日本における主要なⅠ祖録、Ⅱ史伝、Ⅲ清規等について順次解説を試みていきたい。講義はノートによる。

## 仏書解説Ⅰ

新井勝龍

この講座の内容は、禅籍の解説である。禅籍は数多あり、種類も多いが、本講座で中心として取扱うのは宗典である。即ち道元禅師・瑩山禅師の著述を中心として、仏教の枢要をとらえたものとしての禅籍の根本特質を把握する。次に禅の論理・戒律・嗣法・史伝等、重要な綱目から、中国・日本にわたる禅籍の歴史的体系的な理解を目的とする。

〔教科書〕 ノートによる。

## 仏書解説Ⅱ

片山一良

原始仏典及び大乘仏典を、他のインド、中国、日本における諸資料との関連において、具体的かつ総括的に解説紹介する。

〔参考書〕 『新仏典解題事典』（春秋社）

## 仏書解説Ⅱ

田上太秀

解説Ⅱは原始仏教・部派仏教・大乘仏教に亘る文献を総合的に解説する科目である。その意味でそれぞれの文献が思想史の上でどのように連関性をもつかを、最近の学説を織り込んで説明をしたい。テキストは用いず、すべてノートを中心に授業を進める。

〔参考書〕 『仏典解題事典』（春秋社）

## 仏書解説Ⅱ

伊藤隆寿

三蔵の成立、大乘仏典の成立、大蔵経の系譜などについて概説し、主要経典については、その内容及び註釈書を解説したい。プリント及びノートにより話を進める。

## 仏教語解説

原田弘道

仏教を理解するには、仏教的なものの考え方に慣れることが必要である。そのためには、まず仏教用語、専門語を理解しなければならない。しかし仏教用語は極めて難解といわれる。それは今日の一般の教養、知識と馴染みのない特殊な術語を用いているという理由からばかりではない。仏教用語が体験や実践と深く結びついたものであり、その立場によって、同一語であっても場合によって、概念内容に雲泥の相違が存することがあるから

である。本講義はこういった点を考慮しながら、仏教用語を体系的に解説してゆきたい。

〔教科書〕 水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

## 仏教語解説

吉津宜英

仏典を読むためには仏教用語に対する幅広い教養が必要である。その教養を身に付けてゆくためには仏教辞典を卓上に置いて絶えず引いてみることである。しかし、辞典には出ていない用語や用例におつかることもあろう。むしろ、そのような場合が多いのであるが、その時には自分で解釈せざるを得ないことになる。私は仏教用語は生きた文章の中で考えるべきだと思い、八宗綱要をテキストとして用い、その中に出てくる基本的用語に傍線を引いてもらいながら、解説したい。それらの基本的用語に関しては定義を暗記してもらいたい。ただし、同一の用語であっても文献によって別な解釈があることに留意しなくてはならない。

〔教科書〕 八宗綱要（プリント）

〔参考書〕 平川 彰『八宗綱要』上・下（大蔵出版）

鎌田茂雄『八宗綱要』（講談社学術文庫）

## 仏教語解説

峯岸孝哉

仏教を理解するためには仏典を正確に読みすすめる必要がある。このためには仏典が成立する基礎としての、仏教語の正確な理解が前提される。この意味から仏典の基本語をとり上げ、それがどのような認識のもとに成立してきたかについて、それぞれ解説をすすめる。

〔教科書〕 水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

# 専門教育科目

## 禅学概論

鏡島元隆

前篇において、インド・中国・日本の禅の歴史について述べ、後篇において、禅の人間観・存在観・社会観等の禅の思想について述べ、終りに現代社会における禅の意義について述べる。

## 禅学思想史

鏡島元隆

- 第一章 道元禅師の宗風
- 第二章 道元禅師門下の思想
- 第三章 瑩山禅師の宗風
- 第四章 瑩山禅師門下の思想
- 第五章 南北朝・室町時代の宗風

## 禅宗史 I

田中良昭

禅宗史 I は中国禅宗史をその内容とする。インドにおける禅をその導入とし、菩提達摩によってもたらされた禅が、中国禅宗として成立した成立の歴史と、その後発展した発展の歴史とに分けて考察する。

- 〔参考書〕 〈講座禅〉 第三巻『禅の歴史—中国—』（筑摩書房）  
〈講座敦煌〉 第八巻『敦煌仏典と禅』（大東出版社）

## 禅宗史 II

伊藤俊彦

禅宗史 II は日本禅宗史をその内容とする。中国禅宗史をふまえて、日本禅宗史を思想史および教団史の立場から講義をすすめていきたい。なお、教科書は使用しない。参考書は講義の際指示する。

## 禅学実習 I

酒井得元  
小坂機融  
河村孝道

禅学は坐禅を根本とする宗教の学問的作業である。学問はあくまで問題を究明することであるが万全の道ではない。究極はむしろ禅学の根本を実修する坐禅にこそ求められなければならない。禅学する者に坐禅が常に実修されないなら真の禅学とは言えない。故に坐禅の実習に当っては坐禅における入堂・坐禅・経行・提唱出堂の一切が厳粛に行持されていくことになる。従ってこのためには次のような基本的心構えが必要である。即ち時間を厳守し始鈴前に全員入堂端坐していること、常に威儀服装を直すこと、毎時間出席参禅して怠休することは決して許されないこと等である。なお4月最初の授業は坐禅堂における進退作法、席次を指示するので必ず受講すること。

〔教科書〕 『普勧坐禅儀』『正法眼蔵坐禅儀』『経行軌』等配布。

## 禅学実習 II

鈴木格禅

一講時を二分し、前半は専ら只管打坐、経行を挿んで後半を『坐禅用心記』の提唱にあてる。授業の実施要領および基本的心構え等については、「禅学実習 I」に全く同じ。

講本は全員同じものを使用することが望ましいので、下記の要領にしたがってほしい。

遅刻を認めず、追再試あるいはレポート提出等による救済措置は一切講じられないから、このことを予めよく承知しておくこと。

〔教科書〕 「曹洞宗全書」宗源（下）。423頁～427頁までをコピーし、厚目の表紙をつけること。

## 禅学講義

小坂機融

中国禅宗成立初期の語録中、禅旨を詩文によって表詮した「参同契」、「宝鏡三昧」、「証道歌」について順次講義する。まずこれら語録の成立流伝の歴史的背景を考察し、その上で当該語録について講じ、各祖師の挙揚した宗義宗風を明らかにする。今年度は「宝鏡三昧」を中心にして講義する。

〔教科書〕 『宝鏡三昧吹唱』（教場で指示）。

〔参考書〕 『曹洞禅講義』、『禅の語録16』、『講座禅第六巻』。

## 禅学演習 I

黒丸寛之

碧巖録・従容録・無門関を順次に講読し、中国禅の本質および各禅籍の特色を解説する。講本は開講のときに指定する。

## 禅学演習Ⅱ

河村孝道

『永平語録』・『洞山録』・『臨濟録』の各祖録を一年ずつ講読演習してゆくもので、演習を通して祖録参究の視点と禅語への慣熟、および各祖師の人格とその宗風の把握とを主目的とする。

〔教科書〕 教場で指示する。

## 宗典講読Ⅰ

新井勝龍

道元禪師親撰『学道用心集』を講読する。正法眼蔵が本証妙修の本証面に力点があるとすれば、学道用心集は妙修面に強調点があり、全篇を修行の心得として十章に分け組織的に示されたものである。

従って小篇ではあるが、日本曹洞宗の学道の枢要が述べられている。また説示が簡明であるため、古くから曹洞禅入門のテキストとして用いられてきた。本学で禅学科の専門必修最初の講座におかれているのもこの伝統をうけているからである。

講読に際しては、始めに史的ないし書誌的に本書の位置づけをし、ついで思想的に道元禪師の一方究尽・本証妙修の道理をほりさげてゆきたい。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 岸沢惟安老師提唱『学道用心集講義』、増永靈鳳『学道の用心』

## 宗典講読Ⅱ

若月正吾

前段においては、中国における清規の歴史とその概要を講述し、さらに道元禪師の清規の特異性を明らかにする。後段においては、テキスト「永平元禪師清規」を使用して「衆寮清規、対大已五夏關梨法、知事清規」について講義する。

〔教科書〕 『永平元禪師清規』¥1,000

## 宗典講義Ⅰ

酒井得元

この講座は仏教学部3年次の必修科目として道元禪師の正法眼蔵を講義する。本年度は「神通」「阿羅漢」「春秋」の三巻を講ずる予定である。使用テキストは当方で用意があるので配布する。しかし本学生は必ず正法眼蔵の全巻の所持が望ましい。それには次の諸本が出版されている。本山版正法眼蔵（鴻盟社）道元禪師全集上巻（筑摩書房）岩波思想大系道元二巻がある。

## 宗典講義Ⅱ

光地英学

曹洞宗太祖瑠山紹瑾禪師の生涯とその撰述の概説。主著「伝光録」の書誌学的考察、伝光録の構造図式と中心思想、伝光録本文の講解。なおテキストについては、授業時間に教場にて後程伝達する。

## 日用經典

櫻井秀雄

曹洞宗常用經典・祖典の解題，および回向文と各種疏などに表われる文意の解明を通して，実践宗学の實際を究明する。

〔教科書〕 櫻井秀雄『曹洞宗回向文講義』¥ 450 『統曹洞宗回向文講義』¥ 500

## 禅学特講Ⅰ

原田弘道

公案禅の成立発展と日本禅

公案禅（看話禅）が成立したのは宋代である。叢林の性格変化がこれをうながしたといつてよい。この問題に関し，叢林の社会経済的背景，叢林の構造変化，叢林の運営理念の変化とその実際，修行観の変化，禅思想の変化等多角的有機的な連関のもとに究明して，その成立の意義を明らかにする。次に道元禅と公案禅，および日本における曹洞宗と臨済宗についても，同様の視点から取り上げて両宗の立場を明らかにして行きたい。

公案の意義，公案の起源と歴史，禅思想および叢林の性格変化，公案禅の成立，公案禅と黙照禅，宋朝鮮と道元禅，曹洞宗と臨済宗等大略以上の順序で講義を進める。

## 禅学特講Ⅱ

黒丸寛之

禅門における戒学と禅定について考察する。戒学については，中国禅における戒律として具足戒と梵網戒，日本禅における戒律として円頓戒と禅戒との異同および特質を考察し，禅定については主に唐代から宋代への推移と道元禅について考察する。

## 禅学特講Ⅲ

伊藤俊彦

道元禅師伝の研究を内容とする。道元禅師伝に関する根本史料を精読しながら，随時，問題点を取り上げて論じて行きたい。テキストはコピーを用意する。

## 禅学特講Ⅳ

鈴木格禅

「見聞宝永記」講読

本書は通常「損翁老人見聞宝永記」と呼ばれる。損翁老人とは，仙台の泰心院に往した

損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「隨聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現代にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕 「続曹洞宗全書」（法語・歌頌）p. 411～p. 445 までをコピーすること。

## 禪 特 講

椎 名 宏 雄

### 禅宗カナ法語の講読

昨年度にひきつづき、鈴木正三（1579～1655）のカナ法語「^{まゐんきよろう}驢鞍橋」を講読する。本書は、三河武士の身から出家した著者が、山居や行脚生活の末に江戸に出て、特異な体験にもとづく独自の禅風を説いた強烈な個性の記録である。本書には、方言などが多用されて縦横に禅法が語られ、思想性に富むとともに具体性が強く、みずみずしい真迫感があふれ、禅宗カナ法語の特長がいかに発揮されている。

本年度は、いよいよ巻下の最後の部分である。正三の最晩年における驚くべき力量が示されて、圧巻である。

〔教科書〕 プリント資料を作成して配布する。

## 詩 偈

山 口 晴 通

仏教各宗のなかで、わが禅門はもっとも漢詩とは不即不離の関係にある。年回法要、葬儀の香語等はすべて漢詩が土台になっている。

「詩禅一如」といわれる所以である。本講座では、いろいろな時代の漢詩を読みながら、初歩的な「漢詩の作り方」を学習する。

漢和辞典の種類については授業中に指示説明する。

〔教科書〕 秦慧玉『詩偈作法』（鴻盟社版）¥ 1,800

〔参考書〕 『漢和辞典』

## 禪 美 術

竹 内 尚 次

禅林美術は、禅宗教団の成立以後の産物で、禅宗教団（叢林）の発生・展開のなかで禅林美術を考えてゆきたい。しかも、もっと広い仏教美術の視野のなかで。

したがって宋元美術でいえば、教団の貴族化とともに伽藍法に傾斜し、道教・浄土信仰・儒教などの要素がはいてくる。

日本美術では、奈良・平安時代の顕教や密教や浄土信仰の美術作品も、当然考えあわせなくてはならない。

したがって、国宝を中心としてそれぞれの時代の代表作品を拾って集中的に一つ一つを  
考えてゆくことになる。

それも学生諸君が自分の手と足で探究するお手伝いをするだけである。

〔参考書〕 玉村竹二『夢窓国師』（平楽寺書店）『国宝』（毎日新聞社）  
『水墨美術』（講談社）

## 仏教概論

山内舜雄

仏陀論、仏身論を中心に、仏教思想の体系的解説をなし、各宗教学の概括的説明におよぶ。

〔教科書〕 ノート講義

## 原始仏教

片山一良

仏教のルーツを原始仏教と呼ぶ。インドから中国、日本などへと伝わった大乘仏教、スリランカ、ビルマ、タイなどに伝わった上座部（俗にいう小乗）仏教、これらはすべて釈尊時代の原始仏教に端を発している。その基本的かつ重要な教理、学説を紹介しつつ、仏教ないし原始仏教文化の本質を考究する。

〔参考書〕 水野弘元『原始仏教』（平楽寺書店）

## 印度仏教史

片山一良

今日われわれに伝えられている仏教はすべてインドにその端を発している。そこには世界性と共にアジアの民族的思惟が凝縮されているといつてよい。前五世紀ゴータマ・ブッダによって説かれた仏教の教えが、インドの内でどのように展開し、外にいかなる影響をおよぼしていったか、その史的展開を、特にアジアの宗教という枠組の中で考察する。

〔参考書〕 平川彰『インド仏教史』〔上、下〕（春秋社）

## 中国仏教史

佐藤達玄

中国への仏教伝来により、受容した中国民衆の習俗や思想の上にもどのような変化が生じたか、また仏教徒の求道の立場がどのように維持されたかを中心に考究する。

〔教科書〕 『仏教史概説・中国篇』（平楽寺書店）

## 日本仏教史

山内舜雄

宇井伯寿著「日本仏教概史」（岩波書店）を教科書として使用し、上代から中世、特に鎌倉仏教までを詳説する。

〔参考書〕 田村芳朗『鎌倉新仏教思想の研究』

## 仏教教理史 I (印度)

平井俊栄

インドにおける仏教教理の展開を歴史的に講義する。釈尊の根本教説にはじまって、原始仏教、部派仏教（小乗仏教）、大乘仏教、さらに中観、瑜伽両学派の教理について講ずる。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）の第2部「インドの仏教」

〔参考書〕 平川彰『インド仏教史 上・下』（春秋社）

## 仏教教理史 II (中国)

田中良昭

中国における仏教教理の歴史的展開を考察する。外来宗教としての仏教が、中国固有の宗教と交渉しつつ、訳経、義解、研究、教判、宗派、実践、融合という過程を経て、中国仏教として成立発展した歴史を講述する。

〔教科書〕 鎌田茂雄『中国仏教史』（岩波書店）

## 印度哲学史

田上太秀

まずヴェーダの神話、宗教、文学を概観し、その哲学思想を紹介する。つぎにウパニシヤッド哲学を紹介し、六師外道の思想を仏教との関連の上で考える。このあと、六種のバラモン思想の体系をも仏教との関わりの上で講義を進めることになる。

受講するにあたって、つぎの参考書を講入し、基礎的予備知識をもっていることが望ましい。

〔参考書〕 中村元『インド思想史』（岩波全書 改訂版）

金倉円照『インド哲学史』（平楽寺書店） ¥ 900

## 経典講読 I

田上太秀

インド・中国・朝鮮・日本の各国において古来より親しまれて来た経典の一つ、金剛般若経を講読する。講義形式はサンスクリット原典と漢訳本とのテキスト本を使用し、和訳・解説をする。後期からは法句経・般若心経の講読をする。これはプリントを使用する。

〔教科書〕 『金剛般若経』（更生社）

## 経典講読 II

岡部和雄

大乘仏教の歴史と思想を概観し、とくに大乘経典の成立と展開の問題を、経論の本文を

講読することによって、たどってみたい。とりあげる経論は大乗の主要なものから、いくつかを選ぶ。

## 仏典演習 I

佐藤達玄

本演習は唐代の宗密の著「原人論」を講読する。本書の著者は、儒学・老荘・華嚴の教学に通じた碩学で、その思想的立場より、当時の思想界の誤った見解を正そうとして、浅より深に誘引し、一乗顕性教で真実を開顕しようとした著者の思想をあとづけてみたい。

〔教科書〕 大正大藏経45卷所収の「原人論」を各自がコピーすること。

## 仏典演習 I

吉津宜英

仏典演習 I は基本的な仏典を取上げ、諸君に演習してもらおう授業である。今年は七十五法名目を先ず読み、説一切有部の法有観を考え、次に杜順の法界観門を演習し、真空観から法界観に至る展開をみてみよう。さらに原人論に進んで、儒教や道教の真理性を検討しつつ、法相・破相・法性という宗密独自の仏教分類の仕方を学ぼう。仏教は一切法の立場であるといわれるが、その法をどのように認識してゆくかによって、種々なる教学が成立したのである。本演習では法有観から法界観に至る基本的な法に対する認識を取上げよう。演習であるから、諸君に順次読んでもらうつもりである。当たたら音読でも訓読でも良いから読んでもらいたい。

〔教科書〕 七十五法名目、法界観門、原人論（プリント）

## 仏典演習 II

池田魯参

『摩訶止観』を読む。

中国隋代の天台大師智顛（538～597）が、それまでの中国大陸に行なわれた、あらゆる禅観の方法を体系化し、独自の壮大な構想の下に組織つけた書物である。我が道元禅師も瑩山禅師も、坐禅儀の撰述に際しては多大な影響を受けたといわれている。若いうちに一度は読んでおかなければならない書物の一つであるといえる。

〔教科書〕 大正藏経46卷所収 1頁以下コピー

〔参考書〕 第一回目の講義で指示する。

## 仏典演習 II

伊藤隆寿

中国の嘉祥大師吉藏（549～623）の『三論玄義』を講読する。本書は竜樹（ナーガールジュナ）の中論・十二門論及び提婆（アールヤデーバ）の百論について、その中心思想を仏教内外（外道・アビダルマ仏教・成実論・中国仏教者）の異説を批判することによって明らかにせんとしたものである。内容構成は、大別して、破邪と顕正を述べる本論と、三

論の成立背景や根本趣旨などの諸問題を述べる各論から成るが、本書理解の便を考え、各論の部分から読み進めたいと思う。

〔教科書〕 大正藏経第45巻のプリント

## 仏典研究

岡部和雄

仏教研究にはどのような諸資料があるか、その梵蔵漢巴の基本原典について概説する。また漢訳大蔵経の成立と変遷をたどり、中国訳経史の基本問題についても論及する。さらに敦煌出土の偽経類についても関説する。

## 仏教研究

田上太秀

富永仲基造『出定後語』を読む。仲基は江戸中期の学者で、かれはこの著書において、仏教を否定した。その仏教批判の中に正当性があるとすれば、それはなにかあるいはその理解の仕方に誤謬があるとすれば、それはなにかを検討しつつ、仏教に対する深い理解を得るように読み進みたい。

〔教科書〕 プリントを用意する。

## 仏教特講 II

納富常天

鎌倉新仏教の形成および旧仏教の復興を、思想的・社会的立場から考察し、その展開を概観する。

〔参考書〕 家永三郎監修 『日本仏教史Ⅱ中世編』（法蔵館）

## 仏教特講 III

鎌田茂雄

華嚴教学の根本の書である『華嚴五教章』を用いながら、華嚴学の構造を講義する。『華嚴五教章』の理解なくして華嚴学は分らないものである。

〔教科書〕 『華嚴五教章』（大蔵出版） ¥ 3,000

## 仏教特講 IV

太田久紀

撰大乘論・世親釈・玄奘訳を講読。

〔教科書〕 国訳一切経 瑜伽部 八。

## 仏教特講 V

佐藤達玄

大乘戒思想の源流とその展開について考察する。

## 外国語仏書演習

平井俊栄

Kenneth Chien: *Buddhism in China — A Historical Survey* (1964, Princeton University Press) の演習。本年度は Chap. IX. The Monastic Order, Chap X. Buddhist Temples and Popular Buddhism を読む予定。本書は英文による中国仏教史で、第9, 10章は唐代仏教の教団組織や寺院制度、庶民仏教等が主題である。

〔教科書〕 上記 Text を各自購入のこと。入手困難な場合はコピーすること。

## パーリ語初級

東元慶喜

パーリ語の文法をおしえ、最後にジャータカ（本生物語）をよむ。

An Elementary Grammar of the Pāli language by

Paññānanda Keiki Higashimoto. Price 1800 yen.

A Jātaka Reader with Note and Glossary

Part I Apannaka Jātaka, by

Rev. Zenryū Yoneyama. Price 600 yen.

## パーリ語上級

東元慶喜

平明な散文と韻文で書かれた仏教の説話文学と仏陀伝をよむ。パーリ語の初歩の読本としては最も適したものと思われる。デンマークのパーリ学者ダイズ・アンデルゼンの読本にはいいいな辞書がついていて、初学者にははなはだ便利である。

A Pāli Reader with Notes and Glossary by

Dines Andersen, PH. D.

Price 2,300 yen.

## パーリ語演習

東元慶喜

やさしい散文でかかれたパーリ文に英訳がそえてあり、生活的な文章によって、南方仏教の実際がうかがわれる。この授業をうければ、すでにまなんだパーリ語文法と、辞書のたすけにより、スムーズに学力をのばすことができる。

AIDS TO PĀLI COVAERSATION AND TRANSRATION by

A. P. BUDDHADATTA MAHĀTHERA

Price 1,440 yen.

## パーリ仏教特講

片山一良

今日われわれに伝えられている仏教は、その内容、形態、或いは宗派の如何を問わず、

原始仏教から出発している。大きな流れとして、原始仏教直系の伝統的な上座部（テーラヴァーダ）仏教と、自由進歩的な大乘仏教との二が存する。前者は原始仏典、つまりパーリ語仏典に基づく南アジア、東南アジアに広がる仏教形態であり、本講義の目的は、その教義と実態とを考察し紹介することにある。

本年度は、南アジア、特にスリランカ（旧セイロン）の仏教を文献学と人類学の両立場より包括的に取り上げ、その特質を探ることにしたい。

### サンスクリット語初級

中 田 直 道

サンスクリット語初等文法をJ・ゴンダ教授の教科書を用いて学ぶこととする。

〔教科書〕 J・ゴンダ、鑑淳訳『サンスクリット語初等文法』（春秋社）

### サンスクリット語上級

奈 良 康 明

文法を終了した者を対象に、サンスクリットの読解力ややしなう。

〔教科書〕 辻直四郎『サンスクリット読本』

### チベット語（文法）

中 田 直 道

①チベット語文法を習得し、②ついでチベット訳文を、もとのサンスクリット文と対照し、両者の対応関係に習熟し、③さらに、（もとのサンスクリット文が現在なくて）チベット訳文のみが残っているものについて、この対応関係に留意しつつ、解説をすすめることを行なう。②についてはカマシーラ『真理綱要細疏』の中でサーンキヤ説を紹介している箇所を扱い、③については清弁『論理の炎』のサーンキヤ説を紹介せる箇所を扱う。

〔教科書〕 文法教科書は未定。チベット訳文・サンスクリット文の講本は適時教場にて配布。（プリント・抜別り等）

〔参考書〕 1. 中田「真理綱要およびその註釈書にあらわれたサーンキヤ学派の根本資料画について」（和訳等）、2. 中田「中観心論の頌第六章および論理の炎」（サーンキヤ説を紹介せる部分の和訳等） 1., 2. いずれも抜別りを教場にて適時配布。

### チベット語（講読）

山 口 瑞 鳳

チベット仏教の基本的な方針を定める基となった『菩提道燈論』をその著者自身による注釈書によって読解する。一つにはチベット語による論書、注釈書の読み方に習熟すると同時に、著者アティーシャの示す11世紀のインド仏教の仏教観を学ぶ。

〔教科書〕 『チベット大蔵経』北京版 5344、デルゲ版 3948

## ラテン語特講

佐藤 玖美子

本講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞・名詞の変化に慣れることを目的とするものである。またやさしいラテン語で書かれた物語りの講読をもあわせて行う。

〔教科書〕 樋口勝彦・藤井昇著『詳解ラテン文法』（研究社）

## 宗 教 学 概 論

松 本 皓 一

人間生活にとって宗教は如何なる意味をもっているか、その点を学問の上から究明してゆく。

宗教のもつ社会的機能、個人における人格形成上の意義などを中心に考えてゆく。

〔教科書〕 小口偉一『宗教学』（弘文堂） ㊦ 1,200

## 宗 教 史

松 本 皓 一

1. 東アジアの宗教と風土
2. 日本列島の文化史上の位置
3. 日本の宗教の歴史的展開

〔教科書〕 『日本の宗教心の展開』（大明堂） ㊦ 2,100

## キリスト教史

秀 村 欣 二

欧米の社会・思想・文化を理解する基盤となり、推進力ともなってきたキリスト教約2000年の歴史の流れを辿り、アジアと日本のキリスト教の歴史にも言及し、比較・宗教史的なアプローチをも試みたい。

〔教科書〕 R・バイントン著 気賀重躬・気賀健生訳『世界キリスト教史物語』教文館

〔参考書〕 講義のつど適宜指示する。

## 宗 教 哲 学

脇 本 平 也

宗教哲学とはいかなる学問か。そこで問われる問題は何か。それらの問題に対するアプローチの仕方にはどのようなものがあるか。こういった点について、宗教哲学史の展開過程をあとづけながら概観する。

〔参考書〕 適時指示する。

## 各宗綱要(日蓮教学)

小松邦彰

日蓮聖人の教学は、仏教諸經典のうちから特に『法華経』を根本聖典とし、『法華経』こそが釈尊滅後の末法の時代・社会・人間を救済する唯一の教法であるという独自の解釈に立っている。そこから五義教判・三大秘法が開示されるのであるが、このような特殊性とその構造について明確にしていきたい。

〔参考書〕 『日蓮宗読本』(平楽寺書店)

## 仏教美術

金子良運

わが国の美術はごく近世にいたるまで、直接間接を問わず、そのほとんどが仏教との係り合いをもち、その影響下に造形されている。したがってそれを理解するために、単に形式上の特長だけでなく、造形を生み出した背景として、思想的な展開とともに、政治あるいは経済的な推移も併せて考察する。

## 仏教民俗学

和田謙寿

文化財の集いや郷土史研究会などに臨んだ場合、必ず仏教文化的な知識が必要となってくる。また、葬式や法事などに出かけると必ず仏事などに関する質問を受けるものである。このような場合に対処できるように、冠婚葬祭のうち、とくに、葬祭面に重点を置いて、今年の講座を進めて行きたいと思う。なお、実地巡検や特殊ゼミを実施することができるので、年額1~2万円の費用を用意する必要があると思う。

〔教科書〕 和田謙寿『仏教の地域発展』—民俗学・歴史学的考察—(仏教民俗学研究会発行) ¥2,600

## 宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会社育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会編『現代青少年の宗教意識抄』

## 教化法

皆川広義

仏教における仏道法について、理論と実践との二面より概説したい。この場合、仏道とは教えを宣布する布教活動と、その教えにより対機を育成する教化活動を意味する。

理論面からは、教養、対機、仏道者および伝道法の三点より、現代における仏教伝道のあり方をさぐる。

実践面からは、教えの宣布を中心とした布教活動と、教えにより教化育成する教化活動に分けて現場における実践として具体的に考察する。

## 青少年教化法

皆川 広義

仏教における青少年教化活動について概説し、次に、対機論と集団教化および個人教化法を特にとりあげて詳説したい。

対機論では、近代の諸科学の人間研究や仏教の人間観などをふまえて、幼児、少年、青年と身心の発達にそいながら特色および行動などをさぐり、教化のあり方を求める。

集団教化法では、仏教青年会、禅的合宿研修（禅の集い・禅の家）スカウト・日校・子ども会などを、個人教化法では、人生相談・信仰誘引法など具体的に考察する。

## 青少年問題研究

和田 謙寿

中学校や高等学校の教師をめざす者。または、青少年の指導者を志す人々を対象とし、その理論と現実の両者を見つめつつ講義をして行きたい。特に学校の教師となる場合は、専攻した学科は当然なこと、受持ちクラスの生活指導にも多大な比重で尽くさねばならぬ。その点に深く留意して授業をすすめる事にする。（更に深く研究をしようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法であろう。）家庭内暴力の問題、校内暴力、青少年の薬物乱用、暴走族、青少年の異性問題など、種々社会の問題としてとりあげられているが、これらの問題も時間の許す限り取組みたいと思っている。

〔教科書〕 和田謙寿『少年補導の研究』（全国防犯協会） ¥ 1,500

## 青少年指導演習

和田 謙寿

国や地方公共団体が年々増加する青少年の非行化に対応して万全の策を尽くしているが焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけでは済まされぬものではなく、現実面からの考察が必要である。将来、少年補導員や青少年補導員、民生委員（児童委員）社会教育主事や福祉主事、生活指導教諭に従事しようとする人々には、ぜひとも必要な講座である。最近の新聞報道によれば、現在の学校教師や福祉主事の仕事を果すためには、青少年の非行化は正指導に通じていなければ用をなさないと言われている。この線に沿って、少年補導学、ケース・ワークを中心に考察して行きたい。

〔参考書〕 和田謙寿『補導必携』（創作出版社） ¥ 850

## 哲学概説

斎藤 知正

哲学は本来、外に対象に向う認識としてではなく、内に反省する主観の自覚たることをその本質とする学問である。本講は外延的に哲学の全体を概観することよりも、内包的に哲学全体に通ずる本質を反省することに主眼を置きながら話を進めることにする。

〔教科書〕 教室にて示す。  
〔参考書〕

## 現代哲学概説

久保陽一

前年度の講義の続き。ヘーゲル以後の現代諸哲学が課題とした「疎外の克服」、「存在の解明」、「言語の分析」等について、代表的哲学者の学説を検討したい。

〔参考書〕 マルクス『経済学哲学草稿』、ハイデッガー『存在と時間』、ヴィトゲンシュタイン『論理哲学論考』これら以外についても、そのつど挙げる。

## 哲学史

大村晴雄

### 第一章 古代哲学（ギリシア哲学）

I アリストテレスまで

II アリストテレス以後

### 第二章 中世哲学

I 教父哲学

II スコラ哲学

### 第三章 近世哲学概説

〔参考書〕 大村晴雄（著者代表）『思索の歴史』（公論社）

## 哲学演習

齋藤知正

西谷啓治著「宗教とは何か」（創文社刊）をテキストにして演習を行う。この書をテキストとすることは、畢竟するところ学ぶものが自らの「自己をならふ」ことにあることを主眼とすべきものであり、そのような主体的探究心のある者の参加を望む。テキストは各自で用意する。

## 中国文学概論

飯田利行

日本文学と対照して中国文学を概論する。

## 中国文学演習

飯田利行

良寛詩は三千年の中国文学史上、画期的な形態と内容をもったものである。そのためか、現在「ぎょうせい社」で出版中の『世界の伝記』五十巻には、古今東西の偉人五十名が選ばれているが、仏家では「釈迦」と「良寛」だけである。良寛詩は、日本が世界に誇りうる唯一の文学作品である。

〔教科書〕 『良寛詩集訳』（大法輪閣） ㊦ 2,200

## 東洋思想研究

船津富彦

中国の思想の流れは、実に複雑な面を持つが、本年度においては日本文学にも大きな影響を与えた文学論を中心にして、歴史的な流れにおいて、その代表的文献を読みつつ、思想的な立場から種々考察してみたい。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 講義中に指示

## 心理学概論

篠原英壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）

## 禅学研究

青龍宗二

この講座は必修科目の時から内容が規定されているので、それを継承してゆくが、その内容とは宗意・禅戒・清規のいわゆる曹洞宗の根本教学である。その意味で宗学を専攻する者は必然的に参究しなければならない宗学上の主要課題である。

そのため宗意の根本基調である本証妙修の教理的構造を分析して、その意義を理解せしめると共に、本証の妙修としての禅戒・清規思想を参究してゆく。

## 禅籍講義

青龍宗二

今年度より禅学講義Ⅱを名称変更して禅籍講義（4単位）としたが、従来通り中国禅籍を取り扱う。特にこの講義は宗学の立場から、六祖壇経および南嶽下の禅語録を中心として、その原意を把握しながら道元禅との異同を明らかにしてゆく。

〔教科書〕 教場で指示する。

## 教職および資格講座

### 教 職 課 程

学校図書館司書教諭講座

博物館学講座

社会福祉主事講座

社会教育主事講座

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講出来る課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座受講の手びき」を参照）

課 程・講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全学部
学校図書館司書教諭講座	全学部
博 物 館 学 講 座	文学部・仏教学部
社会福祉主事講座	文学部・仏教学部
社会教育主事講座	文学部・経済学部・法学部・経営学部



# 目 次

教育原理(汐見 稔幸).....	1	地誌学概説(今朝洞重美).....	9
教育原理(上岡 安彦).....	1	地誌学概説(長野 覚).....	9
教育原理(村山 輝吉).....	1	地誌学概説(渡辺 盾夫).....	9
教育原理(坂本 信昭).....	1	自然地理学概説(早船 元).....	9
青年心理学(大浜幾久子).....	2	人文地理学概説(高木 久).....	9
青年心理学(渡辺三和子).....	2	社会学原論(金丸 由雄).....	9
青年心理学(武井 澄江).....	2	社会学原論(渡辺 源樹).....	10
教育心理学(大浜幾久子).....	2	経済原論(小野 俊夫).....	10
教育心理学(渡辺三和子).....	2	政治学原論(飯山 勇).....	10
教育心理学(中村 均).....	2	民法 I (雨宮 真也).....	10
教育心理学(武井 澄江).....	3	哲学特講 I (篠原壽雄).....	10
道德教育の研究(松田 文雄).....	3	哲学特講 II (山下 太郎).....	11
教育実習(汐見 稔幸).....	3	宗教学特講 I (松田 文雄).....	11
教育実習(上岡 安彦).....	3	宗教学特講 II (脇本 平也).....	11
教育実習(村山 輝吉).....	3	宗教学特講 III (洗 建).....	11
教育実習(坂本 信昭).....	4	教育史(磯野 昌蔵).....	12
国語科教育法(神谷 道倫).....	4	宗教教育(櫻井 秀雄).....	12
書道科教育法(谷村 義雄).....	4	教育関係法規(汐見 稔幸).....	12
宗教科教育法(松本 皓一).....	4	書道実習 I (金子 卓義).....	12
英語科教育法(大沢 一雄).....	4	書道実習 II (金子 卓義).....	12
社会科教育法(地理)(中島 義一).....	5	図書館学 I (若林元典)・(山崎 慶子).....	12
社会科教育法(地理)(高木 久).....	5	図書館学 II (若林 元典).....	13
社会科教育法(歴史)(野呂 肖生).....	5	博物館学(倉田 芳郎).....	13
社会科教育法(谷敷 正光).....	5	博物館実習 I (館務)	
社会科教育法(古屋野素材).....	6	(倉田芳郎)・(石井則孝).....	13
職業科教育法(中野目直明).....	6	博物館実習 II (収集)	
商業科教育法(谷敷 正光).....	6	(倉田芳郎)・(葉貫磨哉)	
商業実習(前田 幸一).....	7	(所理喜夫)・(加藤晋平).....	13
職業指導(山田 勇治).....	7	博物館実習 III (見学)	
産業概説(和田 禎一).....	8	(倉田芳郎)・(鶴丸俊明).....	14
世界史概説(前田 正名).....	8	博物館実習 IV (特講)(石井 則孝).....	14
世界史概説(青木 道彦).....	8	視聴覚教育(神山 順一).....	14
日本史概説(芥川 龍男).....	8	日本文化史(杉山 博).....	15

西洋文化史Ⅰ(渡辺 茂).....15	グループ・ワーク(松本 栄二).....19
西洋文化史Ⅱ(阿部 重雄).....15	社会調査(川本 勝).....20
仏教美術(金子 良運).....15	児童福祉論(原田 信一).....20
現代美術(中山 典夫).....15	老人福祉論(浅野 仁).....20
禅美術(竹内 尚次).....16	社会福祉事業史(小沼 正).....21
美術史概説(杉山 二郎).....16	社会福祉法制(高橋 政美).....21
西域美術史(杉山 二郎).....16	公的扶助論(林 千代).....21
考古学概説Ⅰ(日本)(倉田 芳郎).....16	社会保障論(小沼 正).....21
考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次).....17	精神医学(植村 肇).....22
考古学特講(後藤 和民).....17	社会教育概論(長浜 功).....22
考古学特講(坂詰 秀一).....17	社会教育方法論(上岡 安彦).....22
日本民俗学(山折 哲雄).....17	社会教育行政財政(長浜 功).....22
仏教民俗学(和田 謙寿).....18	教育社会学(村山 輝吉).....22
宗教人類学(佐々木宏幹).....18	社会心理学(水原 泰介).....23
社会福祉概論(原田 信一).....18	社会教育施設(村山 輝吉).....23
障害福祉論(原田 信一).....18	児童教化(北田 耕也).....23
社会福祉実習(原田 信一).....19	青少年問題研究(和田 謙寿).....23
地域福祉論(岡田 真).....19	青少年指導演習(和田 謙寿).....24
ケース・ワーク論(高橋 重宏).....19	社会教育演習(上岡 安彦).....24

## 教育原理

汐見稔幸

教育とはなにかということについて人間学的、歴史学的等多面的な方法によってアプローチし、教育の意義、目的、可能性などを考え合う。今日の教育問題もとりあげ、その性格の本質についても考える。

## 教育原理

上岡安彦

テキストを中心として教育の固有性の論究を試みる。

〔教科書〕 デューイ・宮原訳『学校と社会』（岩波文庫）

## 教育原理

村山輝吉

1. 教育の意義
2. 教育の目的
3. 教育のしくみ  
(1)家庭教育 (2)学校制度 (3)社会教育 (4)行財政
4. 学校教育について  
(1)学校の特質 (2)教育課程 (3)教授=学習過程 (4)生活指導と学級経営
5. 教師について

## 教育原理

坂本信昭

1. 教育とは何か
2. 教育の目的
3. 教育の内容
4. 教育の方法  
(1) 教授学習の方法  
(2) 生活指導
5. 教育の経営
6. 教育の制度
7. 教師

おおむね上記についてテキストにそって論究してゆく。

〔教科書〕 教師養成研究会編『教育原理』〔4訂修正版〕（学芸図書） ¥ 900

〔参考書〕 デューイ著・宮原誠一訳『学校と社会』（岩波文庫）など、授業で適宜紹介する。

## 青年心理学

大 浜 幾 久 子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について検討する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な考え方と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

## 青年心理学

渡 辺 三 和 子

前期では人格発達の諸問題を取りあげ、人間の発達における青年期の占める位置を考える。後期では、青年期独自の問題を検討しつつ、自己を深め、また中高校生の心理を理解することをめざす。

〔参考書〕 津留宏『青年心理学』(有斐閣双書)

## 青年心理学

武 井 澄 江

青年期を乳幼児、児童期から成人への発達系列の中に位置づける。その上で、人間に特有だといわれるこの時期の発達上の特徴をとらえていく。特に、人格、人間関係、価値観など社会的生活の側面が中心になるだろう。なお、講義の中で、人格検査等の実習も行う予定である。

## 教育心理学

大 浜 幾 久 子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の各分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場に即応した様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

## 教育心理学

渡 辺 三 和 子

前期は発達のしくみ、発達と学習を中心に、後期は教材における教授学習の過程について考察する。

〔参考書〕 永野重史、依田明編『教育心理学入門』(新曜社)

## 教育心理学

中 村 均

大人になってしまった者(たとえば、この講義への出席者)にとって、子どもの理解は大変困難である。そこで、子どもがどうしてそのような行動をとるのか、について、心理学の考え方で、説明を試みる。と同時に、望ましいと思われる行動をとらせるためにはどうしたら良いのか、について考えてみる。(発達、および学習)

また、それぞれの子どもに応じた教育的働きかけについて(個人差)、更に、教育的働き

かけがやまくいっているのかどうかをチェックする方法（評価）について触れる。

〔教科書〕 永野重史・依田明共編『教育心理学入門』（新曜社）

〔参考書〕 波多野誼余夫・久原恵子『入門教育心理学』（有斐閣）

## 教育心理学

武井澄江

「発達」「学習」「パーソナリティと適応」「評価」などに関する心理学的知見を概説する。この講義を通して、生徒の学習指導・生活指導の中で必ずつきあたる、専門教科の知識や一般的常識だけでは解決しえない、様々な問題に対処する基礎を身につけてほしい。

## 道徳教育の研究

松田文雄

道徳の定義、道徳教育の歴史、その位置づけ、方法論などを体系的にまとめてみたい。

〔教科書〕 『道徳教育の研究』〔改訂版〕（学芸図書） ¥650

## 教育実習

汐見稔幸

実習前は実習の意義、心がまえ、授業の本質などについて論じ、実習後は感想等をもとに、よりつつこんで教えることの意義、可能性、教師のあり方などについて考えあう。

## 教育実習

上岡安彦

教育実習事前指導と事後指導との二段階において行なう。

## 教育実習

村山輝吉

教育実習を効果的におこない、教育について望ましい理解と関心を得られるよう、年間を通じて次の事項をあつかう。

1. 教育実習の意義と心得
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

現場における実習の体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接相談、模擬実習等、適宜の方法と形態で構成される。

## 教育実習

坂本信昭

駒沢大学に於ける教育実習は通年履修となっており、おおむね下記のとおりに進める。

○教育実習前の段階では、①教育実習の意義及び目標・内容（領域）に関する講義とそれに並行して、②実習校における教育実習の事例を示し、③教育実習の心得などに関する事前指導を行なう。

○教育実習後には、①各自の実習報告の後、②グループ編成による授業（ディスカッション）を行ない、③問題提起に対するレポート作成（提出）を通して、教育実習の成果としての教育の正しい理解と教職への関心を養う、いわゆる事後指導を行なう。

〔参考書〕大村はま『教えるということ』共文社など、授業で適宜紹介する。

## 国語科教育法

神谷道倫

中学校・高等学校の国語科教育の意義・現況、ならびに学習内容（領域）・教材に即したそれぞれの指導方法等の基礎的な事項について講義。しかるのち実際の教材にあたって、指導事項・指導方法等の研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校国語科教育法』〔新版〕（桜楓社） ¥ 880

## 書道科教育法

谷村義雄

書とは何か。中・高校に於ける書道科の教員として必要な知識と、書道をいかに学習するか、その研究法を教授する。

〔参考書〕文部省『芸術科指導要領解説篇』

## 宗教科教育法

松本皓一

宗教科の特質を述べ、宗教科教育を行う上に必要と思われる問題点を拾いあげて考察する。

後半では、教材研究を中心とする。

〔参考書〕必要に応じ指示する。

## 英語科教育法

大沢一雄

各種教授法について述べたあとで、新しい教授法がどうあるべきかを考える。なお、初級から上級までの各段階の英語教授について演習をおこなう。

## 社会科教育法（地理）

中 島 義 一

中学・高校の地理につき、指導計画、指導案の立て方、教材研究、地理クラブ・修学旅行の指導法等につき講じ、後半は授業演習を行う。その際に中学校の社会科教科書を使うが、これについては授業時に指示する。

〔教科書〕 山崎謹哉『地理教育の本質と実践』（古今書院）

## 社会科教育法（地理）

高 木 久

1. 教師としての在り方
2. 地理学方法論の確認
3. 地理教育について
4. 新学習指導要領の内容
5. 地図指導
6. 教育実習の意義
7. 学習指導案の研究
8. 模擬授業

前期において講義を中心とし、後期においては教室での演習を専一とし、その批判・反省を行なって行く。

## 社会科教育法（歴史）

野 呂 肖 生

中学校・高等学校における社会科教育のあり方について、実際に即して考えてゆけるような講義にしたいと考えている。

## 社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺し続けてきた。

したがって、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容、⑨高等学校社会科の目標・内容、⑩教育評価、⑪教育実習のために、⑫教員採用試験の準備と今年度の採用について

(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究』(1) (高陵社)

遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』(新日本出版新書)

無着成恭『山びこ学校』(角川文庫) その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書も使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修(授業参観)などを行う予定である。

## 社会科教育法

古屋野 素材

我が国において社会科について考えるということは、一教科の問題にとどまらず、必然的に教育問題全体の極めて重要な側面(教育をめぐる政治状況、児童生徒の生活現実と教科の接点等)を深く考察する方向へむかわざるを得ない。当講義では、この点をふまえつつ、社会科に関する歴史的な問題構造を検討し、かつ今後の社会科教育が果すべき役割とその可能性の検討を通じて、教育に主体的にかかわってゆく手がかりをさぐりたい。特に人文・社会科学の諸分野において、各自が専攻する領域で深い学識を得てゆく過程をこそ教職志向のパネとしてゆくことに価値を求め、所謂 Open System の主旨にそって、人文・社会諸科学と社会科の関係にも留意したい。

〔教科書〕 特に用いない。

〔参考書〕 講義の中で紹介する。

## 職業科教育法

中野目 直明

下記の事項について、教職についた場合に役立つような観点から、具体的事例を取り上げて講義を行う。

1. 現代における職業の意義
2. わが国における職業教育の歴史と課題
3. 職業高校の現状と課題
4. 高校の新教育課程
5. 学習指導案、学習指導計画の作成
6. 外国の職業教育

〔参考書〕 宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』(講座現代技術と教育4) (開隆堂)

1,600円

## 商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつ

ねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、今後の高校教育の「多様化」政策の破綻にともなつて、再び大きく、軌道修正されようとしている。従つて、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めたい。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育（商業教育）の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科目の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習のために、⑫教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）。

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）

矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 無着成恭『山びこ学校』（百合出版） 遠山啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社） 田代三良『高校生』（岩波新書）『いま学校で』（朝日新聞社）その他商業の教科書・新聞の切り抜き、雑誌なども使用する。

〔注意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。

## 商業実習

前田 幸一

国内を中心とした商業活動と商品取引活動における諸々の事務手続について授業を進めていく。

〔教科書〕 } 講義の際指示する。  
〔参考書〕 }

## 職業指導

山田 勇治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学の単なる斡旋指導ではなくて、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸長し、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり教養教育についても講述する予定である。

〔教科書〕 山田勇治『会計教育論』（創成社） ¥ 1,300

産業概説

和田 禎 一

資本主義経済発展の原動力は、産業革命以後の新しい産業の群生、その変化に負うところが大きい。そこで本講座では、まず産業の概念、産業構造、産業組織を、現代的視点で解説し、それらを基礎に、戦後日本経済の発展に関与した、日本の産業政策を概観、分析、評価することにした。

〔教科書〕 授業にさいして適宜指示する。

世界史概説

前田 正 名

東アジア史の概説を中国を中心として行う。殷の国家構造から説きおこし、時期順にしたがって、各歴史時期の政治・経済に重点をおいて説明し、できるだけ文化にも触れた。一応、宗代まで概説する予定である。

〔教科書〕 前田正名『東アジア史概説』（文化書房博文社）

世界史概説

青木 道 彦

歴史的世界としての「ヨーロッパ世界」はどのように形成され、発展していったか。またその形成・発展は世界史的観点からみて、どのような意義をもつものであったか。こうした点を中心に講義をすすめたい。

教科書はとくに指定しないが、この講義を受講する機会に、下記の二つの参考書等「西洋史概説」を一冊よみこなしてほしい。

- 〔参考書〕 ① 祇園寺信彦編『西洋史要綱』（御茶の水書房）  
② 衣笠茂他著『概説 西洋史』（東京創元社）

日本史概説

芥川 龍 男

日本の中世に重点をおいて述べる。中世史の主要な問題を取りあげ、史料の解説なども加味しながら歴史研究法的一端を体得するよう配慮する。したがって、積極的な学習態度をのぞむ。一方的な講義ばかりでなく、質問などを通じて交流をもつ授業としてゆきたい。

〔教科書〕 『日本歴史の視点』2、中世（日本書籍） ￥ 1,800

〔参考書〕 竹内理三『日本史小辞典』（角川書店） ￥ 1,400 定価は改訂されていると思います。

## 地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質論を考察しつつ、前期に日本地誌、後期に外国地誌を講義する。

## 地誌学概説

長 野 覚

世界的視野において、地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域的特色の概要を指導する。後期には中華人民共和国を含む幾つかの国を対象に、具体的なその国の地誌を学習する。受講の際は、きでるだけ地図帳を併用することが望ましい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎他共著『世界地誌』〔改訂版〕（大明堂） ¥ 1,700

## 地誌学概説

渡 辺 盾 夫

読図の方法を理解したのちに、地誌について各国の地域的な特色を入れて講義をする。受講の際には地図帳を持参すること。

## 自然地理学概説

早 船 元

人間生活の舞台である大地の形成過程について述べ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意のこと。

## 人文地理学概説

高 木 久

地理学思想・歴史を述べ、人文地理学の方法論を考察する。「地理的な見方、考え方」の基礎の上に立って、人文地理学の各部門（地図、自然、人文関係）について概説し、人文地理学の理解と関心を深める。

## 社会学原論

金 丸 由 雄

由来科学には絶対的教義はない。あるのは仮設群のみで、それらのうち信憑性の比較的高いものとそうでないもののみである。本講では社会学史上古典と目されるいくつかの理論ないし研究を対象とするが、それらは当然正しいかどうかの問題であるよりも、その扱っている問題の性質、アプローチの仕方、論理的方法、科学的理論としての性格などをこそ、重要な項目として注目するのである。

〔参考書〕 T. パーソンス『社会的行為の構造』、R.K. マートン『社会理論と社会構造』

## 社会学原論

渡辺源樹

(1)現代社会学における理論と実証の結合、並びに(2)社会集団と人間の問題、という二つの論点を講義の重点に据え、現代社会学の課題とその主要問題をつとめて体系的かつ具体的に講述する。

## 経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学は、微視的理論と巨視的理論を二大支柱としている。前者は個々の経済主体の分析から出発し、後者は一国全体の経済現象を直接分析することによって、資本主義の経済過程を解明しようとするものである。本講義では、巨視的理論に重点をおくが微視的理論にも注意を払いながら解説し、現代資本主義経済に関する分析力を養うことを意図している。

〔教科書〕 開講の際に知らせる

## 政治学原論

飯山勇

本講は、政治学の基礎理論的部分をとりあげ、その原理的究明に主眼を置いて講義を行なう。特に本講では現代政治についての理解を深める意図から、現代国家と政治過程に力点を置き、そのなかで大衆社会と政治的諸問題、政治過程と政治集団などに触れつつ、さらに主として、政治権力、国家、政治機構などを解明する。

〔教科書〕 飯山勇『政治学要論』（八千代出版）

## 民法 I

雨宮真也

民法のうち、総則・物権・担保物権の分野を講義する。

とくに、民法総則の分野においては、法律を学ぶうえで最も基本的な多くの考え方が現われてくる。たとえば、法律行為（契約も手形行為も法律行為の一種である）とは何か、その成立・不成立、有効・無効などについての考え方である。

三年次以降において、民法Ⅱ・商法・経済法など法律科目を履修しようとする者は、民法Ⅰを履修しておくべきである。

〔教科書〕 雨宮真也外二名共著『民法読本Ⅰ（総則・物権・担保物権）』（高文堂出版社）  
¥ 1,580。なお、来年度『民法Ⅱ』を履修する予定の者は、民法読本Ⅰ・Ⅱの合本である『民法読本（財産法）』¥ 2,350を購入しておくこと、引き続き使用できる。

## 哲学特講 I

篠原壽雄

中国の哲学を考える時に、孔子の占める位置は大きい。儒学は孔子を頂点として発展し

てきた。孔子に対して、老子の議論は形而上学的である。荘子は老子をつぐ。この孔老荘をはじめとして、孟荀韓など先泰諸子の哲学は多彩である。これらの哲学を学び、より思索的である宋明の理学までたどりたい。そして中国人が古来追求してきたものは何か。それは生きている人間とどのようななかかわり合いをもつものか等を学びたい。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時示す。

## 哲学特講 Ⅱ

山下 太郎

西洋近世哲学史において一つの顕著な時代を劃したドイツ理想主義の哲学の流れを概観し、とくにヘーゲル哲学の形成と展開とを中心として講義する。またその批判的潮流としてシュローベンハウエルの意志哲学にもふれ、哲学における主知主義と主意主義の比較をも試みたい。とりわけ社会哲学の側面に注目し、時代との連関を明らかにすることにつとめる。

〔教科書〕 山下太郎『社会存在の理法—ヘーゲルとシュローベンハウエル—』

## 宗教学特講 Ⅰ

松田 文雄

—宗教思想および用語の概説—、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

## 宗教学特講 Ⅱ

脇本 平也

—宗教現象の構造—宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に連関しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔参考書〕 適時指示する。

## 宗教学特講 Ⅲ

洗 建

現代社会における宗教の問題、すなわち、新宗教運動、世俗化、政教関係などの問題について考える。今年は政教関係にかかわる問題ととりあげ、法的制度とそれを支える価値規範、更なるその底流にある伝統的宗教文化との関係などについて考察したい。

〔参考書〕 その都度、指示する。

## 教 育 史

磯 野 昌 蔵

開講時に指示する。

## 宗 教 教 育

櫻 井 秀 雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会編『現代青少年の宗教意識抄』

## 教育関係法規

汐 見 稔 幸

主として教職を志す人を対象にし、(1)戦後教育体制の確立の経緯と意義を論じたあと、(2)教職を志す人がぜひ身につけておきたい教育法規について概説する。

〔教科書〕『教育関係小六法』（できれば学陽書房「教育小六法」58年版）

## 書 道 実 習 I

金 子 卓 義

古典の臨書による、筆法、形態などの研究を主に書道全般にわたる基礎知識を学ぶ。

〔教科書〕○『書道I』（高校用教科書）教育出版社 ○『中国の書道孟法師碑』（書芸文化新社）

## 書 道 実 習 II

金 子 卓 義

古典の臨書によって書法を学び、表現力を養い、作品製作にまで導く。

〔教科書〕『書道II』（教育出版社）、『祭姪稿、争座位帖』（書芸文化新社）

## 図 書 館 学 I

若 林 元 典 ・ 山 崎 慶 子

児童、生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれをすべての生徒に提供できるか、それらを利用する力を高めるにはどうしたらよいか、又人間形成に役立つ読書のあり方等の追求を学校図書館活動として考えて行きたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」で、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

## 図書館学Ⅱ

若林元典

小・中・高校における教育活動の肉付けとなる教材資料のうちで最も基本的な図書資料を主とし、それに図書以外の資料を加えて、各種資料の収集・整理・利用のために必要とされる知識・技能の修得を目指している。

整理は利用のための整理であり、利用の能率と効果は良質な資料の収集と適切な整理によって裏付けられる。したがって図書館学は収集・整理・管理・利用の全領域にわたる資料運用の学である。

「図書の分類」、「図書の目録」、「資料の選択」、「図書以外の資料の利用」が講義内容である。

〔教科書〕 図書館教育研究会『学校図書館通論』（学芸図書）

『図書館学演習資料 後編』全国学校図書館協議会

## 博物館学

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」と有機的に関連をもたせてあるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組む上で、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難かしいかもしれない。本講義は博物館学の基本を講ずるので、この講義を聴くだけで博物館を全く識るというわけにはゆかない。その点からいえば社教主事になる方は、なるべく他の選択科目を受けていただきたい。4月第1週の時間に必ず出席すること。

## 博物館実習Ⅰ（館務）

倉田芳郎・石井則孝

博物館で10日間学芸員について実習を行う。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。

## 博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・葉貫磨哉  
所理喜夫・加藤晋平

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうち、1つを履修すればよい。

1. 石仏・文書収集調査 長野・9月下旬
2. 石仏収集調査 長野・10月上旬
3. 考古発掘調査 東京・7月後半

4.       "                       群馬・3月中
5. 遺跡分布調査               千葉・2月中
6. 遺跡分布調査               群馬・3月中
7. 個人の特殊テーマによる収集調査 時期は相談

### 博物館実習Ⅲ（見学）

倉田芳郎・鶴丸俊明

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習は半期行うのであるが、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第週に出席すること。

### 博物館実習Ⅳ（特講）

石井則孝

博物館が活動している調査、収集、保管、展示が、実際上どのようなかたちで流れ、広報普及によって、いかに博物館が一般大衆のものになりうるのか、さらに、博物館が大学と同レベルの研究施設として機能していけるのか、過去10年間における博物館建設と運営の経験から実践的博物館学を教え、学芸員という資格をフルに活用できる知識を学ばせたい。日本の博物館のほとんどが、建物→物→人の順序の中で新設されており、人→物→建物へと進む本来の姿に戻すべき基本姿勢なども講義したい。又、博物館が見せるという立場から、企画の重要性面白さ、困難さなども、毎日のように公開されているデパート展などの内容も取り入れて講義する。

### 視聴覚教育

神山順一

(Ⅰ) 前期は、コメニウス (J・A・Comenius) を始祖とする視聴覚教育の理論について講義をおこなう。とくに E・デール (E・Dale) によって集大成された "Audio-Visual Method in Teaching" を中心とし、とりわけ視聴覚的方法の教育思想に占める意義について歴史的に考察する。

(Ⅱ) 後期は、視聴覚教育の用具と方法について個別的に検討を加え、各用具の特性を明らかにする。スライド、OHP (オーバーヘッドプロジェクター)、映画、ラジオ、テレビ、録音、録画 (VTR、カセット教材) 等。

さらに以上の理解の上立って、ハードウェアとソフトウェア、各教材の制作状況、視聴覚ライブラリー、著作権、自主教材制作などの諸問題について考察する。

〔教科書〕 とくに指定しない。

〔参考書〕 講義の進行にともない随時指示する。

## 日本文化史 Ⅱ

杉山 博

日本文化を創造し発展せしめた基盤を形成した職人層について、中世に残された4つの職人歌合絵巻を中心にして、その具体相を明らかにしたい。

〔教科書〕 プリント使用

## 西洋文化史 I

渡辺 茂

アフリカ大陸の文化史。

- (1) アフリカ大陸文化の前提条件としての自然環境。
- (2) 人類の原始故郷たるグレート・リフト・バレー。
- (3) タッシリ・ナゼールの岩壁画に反映したサハラにおける民族移動。
- (4) 現存するアフリカ最古の人種たるコイサン族とその岩壁画の分布。
- (5) 最初の黒人帝国とその製鉄技術。
- (6) 19世紀以降におけるアフリカ内部の探検史。
- (7) 近代におけるヨーロッパ列強の黒人貿易とその影響。

## 西洋文化史 Ⅱ

阿部 重雄

今年度はまず、1000年間に亘るビザンチン史を展望して、それから、東ヨーロッパの——特にロシア史を中心として——文化の特色を、西ヨーロッパ史の発展と対比しながら講述する。

〔教科書〕 } 追って講義中に指示する。  
〔参考書〕 }

## 仏教美術

金子 良運

わが国の美術はごく近世にいたるまで、直接間接を問わず、そのほとんどが仏教との係り合をもち、その影響下に造形されている。したがってそれを理解するために、単に形式上の特長だけでなく、造形を生み出した背景として、思想的な展開とともに、政治あるいは経済的な推移も併せて考察する。

## 現代美術

中山 典夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心にして、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

## 禅 美 術

竹 内 尚 次

禅林美術は、禅宗教団の成立以後の産物で、禅宗教団（叢林）の発生・展開のなかで禅林美術を考へてゆきたい。しかも、もっと広い仏教美術の視野のなかで。

したがって宋元美術でいえば、教団の貴族化とともに伽藍法に傾斜し、道教・浄土信仰・儒教などの要素がはいつてくる。

日本美術では、奈良・平安時代の顯教や密教や浄土信仰の美術作品も、当然考えあわせなくてはならない。

したがって、国宝を中心としてそれぞれの時代の代表作品を拾って集中的に一つ一つを考へてゆくことになる。

それも学生諸君が自分の手と足で探究するお手伝いをするだけである。

〔参考書〕玉村竹二『夢窓国師』（平楽寺書店）、『国宝』（毎日新聞社）、『水墨美術』（講談社）

## 美 術 史 概 説

杉 山 二 郎

本校は曹洞宗に縁由があり、仏教文化、仏教美術について一般的な知識はもちろん、僧侶に必要な図像学的な知識（Buddhist Iconography）を含めて、諸君に教授してみたい。日本仏教美術史といった内容で、仏教文化の受容前期から天平時代を本学年のうちに講述してみる。朝鮮、中国、中央アジアの仏教文化をも常に参照し、その遺物遺構をスライドを通じ、また時に博物館を見学してその美的享受をも示唆したいと考えている。

〔参考書〕講義中に逐次呈示するが、杉山二郎著『大仏建立』学生社を参照のこと。

## 西 域 美 術 史

杉 山 二 郎

今やシルク・ロードのブームが巷間に満ちTVに及んでいるが、仏教東漸の道として、東西文化交渉史の交点として存在する中央アジア・西アジア地域の各民族の興亡と、彼等の残した遺物、遺跡を中心に一年間論及してみたい。なかでも沙漠とオアシス都市のメカニズム（印度、西方極楽浄土の起源論、地獄観の発生と展開など）を中心に、西アジア諸宗教、遊牧民社会と農耕民社会の美術に及ぼした影響問題など克明に追究論及してみたい。

〔参考書〕講義中に逐次あげるが、杉山二郎著「正倉院」 瑠璃書房刊と「西アジア考古美術誌」NHK ブックスをとくに参照のこと。

## 考 古 学 概 説 I（日本）

倉 田 芳 郎

考古学研究の基礎知識を身につけるように、という点に立って講義をする。今年度は、ヨーロッパの考古学の発達に重点をおいて話す予定である。歴史学科学生にとっては、概説の選択必修科目である。また、学芸員課程の学生にとっての選択必修科目でもある。年

度第1回目の授業には必ず出席してほしい。特に教科書は使わない。

## 考古学概説Ⅱ(外国)

飯島武次

本年の考古学概説Ⅱ(外国)は、東洋(中国、朝鮮、東南アジア)における考古学研究について講義する。

〔参考書〕 江上波夫『考古学ゼミナール』(山川出版)、文物編集委員会『中国考古学三十年』(平凡社)

## 考古学特講Ⅰ

後藤和民

○縄文時代の社会

1. 縄文時代の主体者——(1)縄文人種論 (2)原日本人論
2. 縄文土器の研究——(1)土器型式論 (2)土器製作技術
3. 縄文時代の生産技術——(1)狩猟技術, (2)漁撈技術, (3)縄文農耕論, (4)干貝加工, (5)製塩, (6)交易の問題
4. 縄文時代の集落——(1)集落の捉え方, (2)集落の定義, (3)集落の立地, (4)集落の定着性 (5)居住形態の変遷
5. 縄文時代の社会規制——(1)埋葬形態, (2)拔牙形態, (3)装身具, (4)特殊遺構, (5)特殊構物, (6)集団領域
6. 縄文時代の共同体——(1)共同体の捉え方, (2)特殊埋葬, (3)大型貝塚と小型貝塚, (4)集落間の分業, (5)交易, (6)食人論批判, (7)戦争のない社会, (8)共同的社会

## 考古学特講Ⅲ

坂詰秀一

仏教考古学について講じる。仏教考古学は、西欧における聖書考古学とともに宗教考古学の一分科として位置けられているが、その組織化は日本において試みられてきた。本講では、かかる現状を踏えて、仏教考古学の概念をめぐる問題、研究の学史的展開、組織の具体的内容について触れることにしたい。

## 日本民俗学

山折哲雄

柳田国男と折口信夫の仕事を日本現代史の流れのなかで位置づけ、その文学的性格と思想的意味を吟味してみようと思う。

〔参考書〕 山折哲雄『霊と肉』(東大出版会)

## 仏教民俗学

和田 謙 寿

文化財の集いや郷土史研究会などに臨んだ場合、必ず仏教文化的な知識が必要となってくる。また、葬式や法事などに出かけると必ず仏事などに関する質問を受けるものである。このような場合に対処できるように、冠婚葬祭のうち、とくに、葬祭面に重点を置いて、今年の講座を進めて行きたいと思う。なお、実地巡検や特殊ゼミを実施することがあるので、年額1～2万円の費用を用意する必要があると思う。

〔教科書〕和田謙寿『仏教の地域発展』—民俗学・歴史学的考察—（仏教民俗学研究会）

¥ 2,600

## 宗教人類学

佐々木 宏 幹

まず宗教人類学の成立史と構成内容・方法について概説し、のちに個別の課題を取りあげて解説する。対象地域を東・東南・南アジアの民俗社会に限定し、それらにおいて営まれている宗教現象と社会生活とのかかわり合いについて考える。呪術的方法と科学(医術)的方法との関連などについて最近の成果を紹介する。学生諸君からも地域社会で行われている儀礼・慣行などについて意見を述べてもらおう。

〔参考書〕佐々木宏幹『人間と宗教のあいだ』（耕土社） ¥ 1,500

## 社会福祉概論

原 田 信 一

社会福祉という言葉も、近ごろではごく一般的の日常用語として普及し、安易に使用されるようになってきている。ところで、真の社会福祉学とは一体どんな学問なのであろうか、本講においては、社会福祉学の基礎概念をふまえつつ、まず、主として福祉学を広義視点から講述し、さらには各論面（児童福祉、老人福祉、障害福祉、地域福祉等）にふれ、併せて方法論（ケースワーク、グループワーク、スーパービジョン、コミュニティオーガニゼーション等々）についても体系的に講述する。

〔教科書〕 } 開講時に指示する。  
〔参考書〕 }

## 障害福祉論

原 田 信 一

主として、わが国における心身障害児(者)福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面（社会的規範）と政策面等の二面的視角にたち、原点を探るとともに、さらに欧米先進諸国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築の素としてもらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論』（有斐閣）

〔参考書〕 林邦雄他『心身障害児(者)福祉』（田研出版）

## 社会福祉実習

原 田 信 一

これまで自らが、大学の場において学びとってきた福祉の学問を、実習現場において、実際の福祉従事体験とを通して福祉の本質の一端を学びとってもらう。一方大学では、実習前と実習後に、オリエンテーション、現業機関の組織、機能等を実践に即した概説などをトータルの教導し、反省・討議をもあわせて行う予定である。また、実習にのぞむにさいしては、各自が、実習の目的を適確にとらえ、何をとくに実習するかの問題意識を整理し実習にのぞんでもらうことについては今更言うまでもないことである。

〔教科書〕 橋本泰子他編『社会福祉実習』（相川書房）

## 地域福祉論

岡 田 真

「地域住民に“根廻し”をするにはどうすべきかを論ずる授業である。“根廻し”はなぜ施さなければならないのだろうか。それは、ケースワークやグループワークを、現実の住民生活のなかに定着させるためである。

①地域福祉の基本課題。②コミュニティ・ケア。③コミュニティ・オーガニゼーションが、本講の内容であるが、第①のテーマはそのまま地域問題論である。従って、同じ担当者の都市社会学を、ともに知ってくれることが望ましい。（もちろんろん本講だけを履修する人に不利や理解困難が生じないように細心の工夫はするが）

〔教科書〕 岡田真『コミュニティ・ワーク論—地域を根廻しする—』（大明堂）

〔参考書〕 岡田真『都市化日本の学歴社会』（大明堂）

園田泰一『現代コミュニティ論』（東大出版会）

## ケース・ワーク論

高 橋 重 宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の一つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ソーシャル・ワークの概念、歴史的展開過程、基礎的知識、関連理論、ケースワークの原理、ケースワークの過程等について入門的概説をする。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かが体系的に理解できるようにつとめたい。

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）小松源助・山崎美貴子編『ケースワークの基礎知識』（有斐閣）

## グループ・ワーク

松 本 栄 二

社会福祉実践の基礎としてのソーシャルワークについて考えてゆく。特にグループをソーシャルワークにおいてはどの様に利用し、展開してゆくのかに質点づけた内容となる。

医療の場におけるグループワーク、収容施設におけるグループワーク、行政サービス

機関、例えば、児童相談所や、精神衛生センターにおけるグループワーク等、具体的事例を提供しながら講義をすすめる予定。

## 社会調査

川本 勝

社会調査は、社会事象や社会的現実を科学的、実証的に把握し、分析するための研究方法であり、直接現地調査によってデータを蒐集し、それを分析することに特色がある。

したがって、まず理論と調査との関係を考察した上で、社会調査を企画し、実施し、データを分析する手順にしたがって、その過程で用いる技法を具体的な例を示しながら講義する。

講義科目ではあるが、仮説の説定や調査票を作成するなど、2、3の作業を行いレポートの提出がある。

〔参考書〕 福武・松原編『社会調査法』（有斐閣）

安田三郎『社会調査ハンド・ブック』（有斐閣）

## 児童福祉論

原田 信一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとばかりはいきれない。つまり、日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人権無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく現出し、まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで、本講においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業（児童福祉法など）の関連にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』（学文社）

## 老人福祉論

浅野 仁

1. 老人問題の背景
  - 1) 社会、経済的状況
  - 2) 心身の状況
2. 老人福祉施策の現状と課題
  - 1) 施設サービス
  - 2) 在宅サービス
3. 老人のための処遇方法
  - 1) 個別処遇
  - 2) 集団処遇
4. 諸外国の老人福祉

〔教科書〕『図説老人白書』1981年版（碩文社） ¥ 2,600

## 社会福祉事業史

小 沼 正

わが国近代的社会福祉事業の発達を歴史的に解明するために、先ず英米に例をとりたい。そこでは、どのような時期に、どのような主体（中央政府、地方自治体、民間団体など）で、どのような対象に、どのような方法で進められていったか、そしてそれらに対する住民の意識と対応がどのように変っていったか、などが問題である。

つぎにこれを下敷きにして、とくにわが国明治維新以降の歴史を考察していきたい。

〔参考書〕 右田紀久恵・高沢武司・古川孝順『社会福祉の歴史』（有斐閣選書）

小山路男『西洋社会事業史論』（光生館）

## 社会福祉法制

高 橋 政 美

本講では、日本国憲法第25条の考察をてはじめに、社会福祉関係法（福祉六法を中心とする）全体にわたる概要の把握を主たる目的とする。

〔教科書〕 小川政亮『社会事業法制』（ミネルヴァ書房）

## 公的扶助論

林 千 代

貧困は、どのような時代においても人々の生活をおびやかす基本的なかつ切実な要因である。公的扶助への理解は、この貧困についての考え方を明確にさせることから始まるといえる。そして社会保障制度の中で、現実最後のよりどころとなっている生活保護について、その考え方、系譜、制度内容現実態にわたって述べる。公的扶助は、他法との関係、医療や障害、老後保障の動向とも深くかかわりをもつものであり、このような点からも考えたい。

〔教科書〕 未定

〔参考書〕 小沼正『貧困——その測定と生活保護』（東京大学出版会）

籠山京『公的扶助編』（光生館）

## 社会保障論

小 沼 正

先ずわが国現行制度のうち医療保障、年金保険、公的扶助、児童手当などについて、その問題点を挙げる。

ついでこれらをふまえて、その生成と発展に視点を置いて、欧米諸国をも含めて、社会保障の体系、社会経済的条件、財政などについて、論点を進めていきたい。

必修科目（とくに社会福祉コース専攻者において）に準ずるものとして、できるだけ2年次に履修することが望ましい。

〔参考書〕 小山路男・山本正淑編『社会保障教室』（有斐閣選書）

## 精神医学

植村 肇

前期には精神の健康（精神保健）、精神医学・精神衛生の歴史、大脳の構造と生理学的機能などを基礎に精神機能の異常性、精神障害の原因と行政施策、精神障害の診断と治療心身相関などの大要を述べ、更に精神医学の進歩と課題にも触れる。

後期には各論的に離婚・嗜癖（慢性中毒）、自殺、非行・犯罪などの適応障害と精神薄弱、性格異常、神経症、精神病などの精神障害について、具体的に説明する。

〔教科書〕 植村肇『現代人のための精神保健』（ぎょうせい） ¥1,600

## 社会教育概論

長浜 功

前期は社会教育にとらわれず、日本の教育の問題について論及したい。その基礎をふまえて後期において社会教育の本質と問題を論ずることとする。

〔教科書〕 長浜功『日本ファシズム教師論』（大原新生社）

## 社会教育方法論

上岡 安彦

人間形成の過程を広い視野の下に方法論として論究してみようとする。

〔教科書〕 ノバート・ウィーナー（池原・鎮日訳）『人間機械論』 ¥1,600

## 社会教育行政財政

長浜 功

できるだけ社会教育の現場の話をも具体的に紹介し、そこにおける社会教育実践の問題の分析を行う。

〔教科書〕 長浜功『社会教育の思想と方法』（大原新生社）

## 教育社会学

村山 輝吉

人間の発達という課題を、主として社会環境と文化の変容という視点から考察する。

1. 教育社会学の性格
2. 社会化と教育
3. 家族の訓育機能
4. 仲間集団と人間形成
5. 学校の陶冶・形成機能
6. 地域社会と教育
7. 文化の変容と子どもの発達
8. 現代の教育制度・政策と子どもの発達

## 社会心理学

水原泰介

この講義では、社会的知覚（印象形成、帰属など）、社会的影響（同調、態度変化など）、対人関係（協力、競争、援助、攻撃など）、集団力学（集団構造、リーダーシップなど）について、これまでの社会心理学的研究が、どのような方法を用いて、どのようなことを解明しているかを解説する。そして、これらの研究によって明らかにされた諸原理の社会生活への応用について考察する。

【参考書】 水原泰介『社会心理学入門』（東京大学出版会）

## 社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設の意義
2. 社会教育施設の歴史と現状、関係法規
3. 施設各論  
(1)公民館 (2)公共図書館 (3)博物館 (4)その他
4. 施設職員の問題  
公共図書館を重点にとりあげて考察する。

## 児童教化

北田耕也

- 1 明治の少年期と立身出世主義
- 2 大正芸術教育運動と「子どもの発見」
- 3 生活綴方教育と子どもの社会認識
- 4 戦後教育と子どもの共存感覚
- 5 現代の教育・文化状況と子どもの問題

【参考書】 } 講義の進行にしたがって、そのつど指示する。  
【教科書】 }

## 青少年問題研究

和田謙寿

中学校や高等学校の教師をめざす者。または、青少年の指導者を志す人々を対象とし、その理論と現実の両者をつめつつ講義をして行きたい。特に学校の教師となる場合は、専攻した学科は当然なこと、受持ちクラスの生活指導にも多大な比重で尽くさばならぬ。その点に深く留意して授業をすすめる事にする。（更に深く研究をしようとして心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法であろう。）家庭内暴力の問題、校内暴力、青少年の薬物乱用、暴走族、青少年の異性問題など、種々社会の問題としてとりあげられているが、これらの問題も時間の許す限り取組みたいと思っている。

【教科書】 和田謙寿『少年補導の研究』（全国防犯協会） ¥ 1,500

## 青少年指導演習

和田 謙 寿

国や地方公共団体が年々増加する青少年の非行化に対応して万全の策を尽くしているが、鏡石に水の現状である。この種の問題は理論だけでは済まされぬものではなく、現実面からの考察が必要である。将来、少年補導員や青少年補導員、民生委員（児童委員）社会教育主事や福祉主事、生活指導教諭に従事しようとする人たちには、ぜひとも必要な講座である。最近の新聞報道によれば、現在の学校教師や福祉主事の仕事を果すためには、青少年の非行化是正指導に通じていなければ用をなさないと言われている。この線に沿って、少年補導学、ケース・ワークを中心に考察して行きたい。

〔参考書〕和田謙寿「補導必携」（創作出版社） ¥ 850

## 社会教育演習

上岡 安彦

社会教育主事その他社会教育の職員を目指すものに対し、見学、現場実習、討議研究により、社会教育の実際に関する知識、技術を会得させようとする。











